



令和6年度



英国派遣交流事業報告書



2024年11月14日(木)~11月22日(金)

北谷町教育委員会

C O N T E N T S

	教育長あいさつ		P1
---	---------	-------	----

	令和6年度英国派遣交流事業経過報告		P3
---	-------------------	-------	----

	令和6年度北谷町英国派遣交流事業実施要項等		P4
---	-----------------------	-------	----

	第24回北谷町中学生英語スピーチコンテスト発表文		P10
---	--------------------------	-------	-----

	令和6年度北谷町英国派遣交流及び視察研修について		P20
--	--------------------------	-------	-----

	英国派遣団報告書			
生徒	北谷中学校	2年	大嶺 聖司	 P23
〃	北谷中学校	3年	島袋 愛彩	 P25
〃	北谷中学校	3年	平良 優名	 P28
〃	北谷中学校	3年	多嘉良 由理	 P30
〃	北谷中学校	3年	谷口 姫琉	 P32
〃	桑江中学校	3年	奥間 夢野	 P35
〃	桑江中学校	3年	宮里 成輝	 P37
〃	桑江中学校	3年	安田 姫椛	 P39
引率	北谷中学校	教諭	ストール 正枝	 P41
引率	桑江中学校	教諭	久高 将嗣	 P44

	英国派遣交流写真集			P46
---	-----------	---	-------	-----

	令和6年度英語スピーチ・カンバセーションコンテスト		P54
---	---------------------------	-------	-----

	令和6年度英国訪問団受入れ【交流の様子】		P55
---	----------------------	-------	-----



教育長あいさつ

北谷町教育委員会

教育長 原田 利明

北谷町英国派遣交流事業は、2001年から始まり、毎年交流団をイギリス西部のディーン・マグナ・スクールへ派遣し、授業参加やホームステイを通して交流を深めてまいりました。

通算21回目を迎えた今年度も、生徒たちは伝統的なイギリスの建造物や環境のすばらしさ、ホームステイでの温かい受け入れ、ディーン・マグナ・スクールの生徒が熱心に授業を受ける態度に感銘を受け、失敗を恐れず積極的に行動することや、自分の意見を英語で伝えることの難しさと大切さ、更なる英語学習に対する意欲や海外留学への決意、将来は英語を使って人の役に立つ仕事に就きたいと夢を語る生徒など、多くの感動と新たな夢や希望が芽生えたことが伺えました。

北谷町教育委員会では、このような国際交流事業を通して、異文化理解や相互理解を促進し、異なる文化を持つ人々と協調して生きる資質や能力を育むことを目指しています。そのため、英国へ派遣する生徒の選考については、これからの国際社会を担う児童生徒にとって国際共通語としての英語能力は重要な基礎的能力であることから、「中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト」を開催しています。また、令和元年度からは学校推薦枠を設け、派遣生徒数を増員することで、町立中学生全体の英語力の向上を図っています。

さらに、全小学校に AET を配置するなど小学校段階からの国際理解教育を推進し、コミュニケーション手段としての実践的英語力の育成に努め、今後もより一層充実した国際交流の在り方と英語教育を推進し、国際化に対応する人材の育成に励んでいく所存です。

結びに、今年度も北谷町の派遣団を温かく迎えてくださったディーン・マグナ・スクールの校長先生はじめ、ご尽力いただいた先生方、生徒及び保護者の皆様に、心から感謝申し上げ、私のあいさつといたします。

Message from Superintendent

Chatan Board of Education, Toshiaki Harada

Since 2001, Chatan Town has been sending exchange team to Dean Magna School, in western England to deepen the international understanding through school visits and home-stay, introducing their own culture.

This year, for the 21st exchange program, the students were again overwhelmed by England's historical buildings, natural environment, and warm welcomes from the host families, also impressed by the well-mannered attitude and diligence of Dene Magna's students in classes. It was clear that many impressions and new dreams and hopes had grown within them, such as desire to act positively without fear of failure, the difficulty and importance of telling their opinions in English, their desire to learn English further, their determination to study abroad and to use English to help others in the future.

Through these international exchange programmes, the Chatan Town Board of Education aims to promote cross-cultural and mutual understanding, and to develop the qualities and abilities to live in harmony with people from different cultures. To this end, the Junior High School English Speech and Conversation Contest is held to select students to be sent to the UK, as English language skills as a lingua franca are an important basic ability for students who will be responsible for the international society of the future. In addition, since 2019, a school recommendation quota has been established and the number of students dispatched has been increased in order to improve the English language skills as a whole. In conclusion, I would like to express my heartfelt appreciation to Dene Magna Headmaster, Mr. Declan Mooney, all the teachers, students, and parents of Dene Magna School for their support and the warm welcome. I look forward to ever growing friendship for many more years to come.

令和 6 年度 英国派遣交流事業経過報告

1 学校長推薦による派遣者の選出

英作文提出、面接、校内オーディション等により各中学校男女各1名を決定

2 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストによる派遣者の選出

7 月 18 日(木) 出場者全員でカンバセーションパートに関するルール確認と練習

8 月 30 日(金) 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト実施
上位 4 名を英国派遣生として内定

3 英国派遣までの取り組み

9 月 25 日(水) 英国派遣事前学習会①
・今後の日程調整
・訪問中の日程に関する説明

10 月 2 日(水) 英国派遣事前学習会②
・ホストファミリーへの自己紹介文作成
・現地での過ごし方、英会話の練習

10 月 9 日(火) 英国派遣保護者説明会
・英国訪問の心得等の説明会(生徒・保護者)
・訪問中の日程に関する説明

10 月 16 日(水) 英国派遣事前学習会③
・北谷町の歴史、インディアンオーク号についての研修

10 月 23 日(水) 英国派遣事前学習会④
・現地での学校・文化紹介発表準備

10 月 30 日(水) 英国派遣事前学習会⑤
・現地での学校・文化紹介発表準備

11 月 6 日(水) 出発式：町役場1階 レセプションホール
・最終確認(訪問スケジュール、持ち物、保険の確認等)

11 月 14 日(木) ○出発 那覇空港 → 羽田空港 (1泊)

11 月 15 日(金) ○出発 羽田空港 → ヒースロー空港

英国ディーンマグナススクールにて交流・ホームステイ

11 月 22 日(金) ○帰沖 那覇空港

12 月 12 日(木) 英国派遣交流報告会：町役場1階 レセプションホール

令和 6 年度北谷町英国派遣交流事業実施要項

令和 6 年度北谷町英国派遣交流事業を次のとおり実施する。

1 目的

次代を担う中学生を英国に派遣し、異文化及び異言語を体験することで、国際感覚を養うとともに国際理解を深めさせ、もって将来、本町の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

2 北谷町英国派遣交流事業の概要

(1) 事前学習

派遣前に 5 回程度事前研修を行い、派遣生に派遣事業の意義を十分に理解させ、学習意欲を高めるとともに、派遣者として必要な教養と国際的な視野を培い、さらに派遣者相互の人間関係の円滑化を図る。

(2) 現地学習

現地の学校での授業への参加、ホームステイ、史跡の見学等を通して、現地の教育、文化、歴史等の学習を行うとともに、現地の学校の生徒との交流を通して見聞を広める。

(3) 事後学習

派遣後 3 回程度、事後研修にて現地学習の報告を行い、派遣終了後も体験を活かして地域や学校において活発に活動する。

3 派遣期間

令和 6 年 1 1 月 1 4 日（木）～ 1 1 月 2 2 日（金） ※羽田での前泊含む

4 派遣事業の日程

後日「令和 6 年度北谷町英国派遣交流事業日程表」にて示す。

5 派遣場所

派遣先は、英国のディーン・マグナ・スクール及びその近郊とする。

6 派遣者の資格要件

派遣者は、次の資格要件を全て満たすこと。

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算 1 年以上又は継続して 6 箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く。）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者
- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣事業等に参

- 加したことのない者
- (8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者

7 派遣人員等

北谷町立中学校に在学している生徒 8 名

8 選考及び派遣者の決定

- (1) 派遣する生徒8名のうち4名は、各学校で開催した選考会により各学校長が推薦する男子1名、女子 1 名とする。生徒への周知及び作文・面接等による選考会は各学校で実施する。
- (2) 派遣する生徒8名のうち4名は、令和6年8月30日(金)に行われる北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテストにより決定する。コンテスト出場にあたっては各学校で選考会を実施し、4～5名の学校代表者を選出する。

9 引率者

- (1) 引率者は、派遣者が在学している学校の教諭2名で、学校長の推薦による者とする。
- (2) 引率者の役割は、派遣生徒の学習等の補助及び健康管理とする。
- (3) 旅程中の生徒の危機管理責任者として、急な体調不良者への対応を現地交流校担当者と連携して行う。
- (4) ディーン・マグナ・スクールにおける授業参観を通して、教材、教具 (ICT機器等を含む)、生徒の反応や変容の様子、指導形態等について観察するとともに、現地担当者等と積極的に交流することにより英国の教育方法を学び、その成果について報告書を作成する。
- (5) 英国訪問団受入時の交流について、現地担当者との交流方法や内容について意見交換する等の調整を行う。
- (6) 帰国後に、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取組に資すること。

10 経費の支給等

派遣者として決定された者の経費（航空賃、車賃、宿泊費、日当（引率者のみ）、支度料、その他教育長が必要と認める経費）は町が支給するものとし、支払方法は、北谷町会計規則（平成 5 年北谷町規則第 19 号）、北谷町職員の旅費に関する条例（平成 4 年北谷町条例第 1 号）及び国家公務員等の旅費に関する法律（昭和 25 年法律第 114 号）の定めによるところによる。なお、教育長が必要と認めたときは、町は派遣者等への支給に代えて、旅行社等へ直接支払うことができる。

11 派遣生徒の決定取消

派遣の決定後、派遣することが不適当と認められる事由があった場合は、その生徒の派遣を取り消すことがある。

12 派遣交流事業の報告

派遣交流事業終了後、派遣者は、派遣報告書を教育長に提出するものとし、英国派遣交流報告会にて発表する。

第 24 回北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト開催要項

1 趣旨

今後の国際社会に対応するために、将来を担う児童生徒が積極的に世界の人々と交流ができる資質や能力の基礎を培うことが求められる。本町の人材育成の視点から、中学生の英語スピーチ等コンテストを開催し、町内中学生全体の英語力のアップと実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

2 主催 北谷町教育委員会

3 日時 令和 6 年 8 月 3 0 日(金) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分 ※受付午後 1 時 30 分～

4 場所 ちゃたんニライセンター カナイホール

5 出場者 北谷町立各中学校の代表者 4 ～ 5 人 ※学校代表については各校で選考会を開催し選出する。 ※原則として、男女比を均等に選出することが望ましい。

6 出場資格

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算 1 年以上又は継続して 6 箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く。）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者
- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣事業等に参加したことのない者
- (8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者

<留意点>

いかなる期間においても英語を主として授業を行う学校に通学していた生徒は対象外とします。

7 スピーチ及びカンパセーションについて

(1) スピーチについて

- ① 文章内容：学校生活や将来の夢などに関する中学生らしいテーマで、中学生が使用する単語や文法、文章を使用する。
- ② 発表時間：2 分 30 秒以上 3 分以内

(2) カンパセーションについて

- ① 内容： 学校生活や日常的な活動に関する 1 つのトピックに基づき、英語で質問や会話を
する。トピックは事前（約 3 週間前）に学校を通して通知する。
- ② 方法： 司会（大人）を中心に、出場生徒同一の席でトピックの内容について英語で会話を
行う。生徒は上記に関する簡単で日常的な英会話と積極的な発言が求められる。
- ③ 時間： 30 分以内

8 審査基準

(1) スピーチ審査基準 (40 点満点)

- ①【内容】文の構成 (導入、本文、結び)、独創性
- ②【用語選択・言い回し】文法、発音、語彙
- ③【話し方】明瞭さ、声の大きさ、強弱、身振り手振り、表情
- ④【暗記】

(2) カンバセーション審査基準 (60 点満点)

- ①【内容】自分なりの考え、意見
- ②【構成(質問・返答)】内容に沿った質問・返答
- ③【発音】
- ④【語彙】言い回し、表現
- ⑤【積極性】話す意欲
- ⑥【態度】聞き方、話し方のマナー、表情

※スピーチとカンバセーションの評価比はスピーチ 4 : カンバセーション 6 とする。

9 審査 英語に関する学識者 5 人により協議して審査する。

10 表彰 最優秀賞 1 人、優秀賞 3 人、優良賞 6 人

11 派遣 最優秀賞、優秀賞の計 4 人はイギリス派遣を内定する。

第 24 回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーション コンテストプログラム

日時 令和 6 年 8 月 30 日(金)午後 2 時～
場所 ちゃたんニライセンター 1F カナイホール

1. 開会式 14:00～14:10

- (1)主催者あいさつ 北谷町教育委員会 教育長 原田 利明
(2)激励のあいさつ 北谷町長 渡久地 政志

2. スピーチ・カンバセーション 14:10～15:30

- (1)趣旨説明及び審査員紹介 (司会)
(2)スピーチの部 14:15～14:55 北谷中学校代表4人、桑江中学校代表5人
(3)カンバセーションの部 15:00～15:30 //

— 休 憩 (約 15 分) —

3. プレゼンテーション 15:45～16:00

「令和5年度英国派遣報告」 令和5年度派遣生

4. 表彰式 16:05～16:30

- (1)成績発表及び講評 審査員長 沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科
津波 聡 教授
(2)表 彰 北谷町教育委員会 教育長 原田 利明
(3)閉会のことば 北谷町教育委員会 学校教育課長 大嶺 徹

第 24 回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト審査員・結果

1. 審査員構成

英語の堪能な 5 人で審査員を構成する。なお、審査員長は審査の統括、講評を行う。

2. 審査員氏名

審査員長	沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科 教授	津波 聡
審査員	沖縄県立球陽高等学校 英語教諭	比嘉 愛莉
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	ブリタニー ヤング
審査員	沖縄県立北谷高等学校 英語教諭	前泊 貴美
審査員	沖縄県教育庁中頭教育事務所 指導主事	山本 耕司

カンバセーション司会

北谷町立北谷浜川小学校 英語指導助手 ジェーン 瓜生

3. 出場者

最優秀賞 1 名	サブコタ サスクリティ (桑江中 3 年)
優秀賞 3 名	谷口 姫琉 (北谷中 3 年)
	奥間 夢野 (桑江中 3 年)
	平良 優名 (北谷中 3 年)
優良賞 4 名	喜岡 ゆら (桑江中 3 年)
(発表順)	多嘉良 由理 (北谷中 3 年)
	喜屋武 江利南 (桑江中 3 年)
	高谷 祐実 (北谷中 3 年)
	岩木 愛莞 (桑江中 3 年)



The Future I Want

Chatan Junior High School

Yuna Taira

When did you decide what you want to do in the future? I'm in the third grade of junior high school now and I recently started to think about my future more than I used to.

I want to be a pharmacist in the future. I'd like to talk about what made me want to become a pharmacist, and three things I'd like to do in order to become one.

I was in the 6th grade of elementary school when I first decided I wanted to become a pharmacist. "I want to work in a job where I can definitely save people in the future!" I thought. At that time, the coronavirus was spreading around the world. I was filled with fear that there was no cure for the disease, and frustration that I couldn't spend time with my friends as much as I wanted to. Then I saw on the news that a vaccine had been developed to fight the disease that was sweeping the world. After that, I saw that the number of people infected with covid was decreasing, and this sparked my interest in medicine.

The first thing I want to do to become a pharmacist is to continue my studies. There is a great deal to learn as a pharmacist, but there are also opportunities to handle new drugs during the course of my work, and various things such as efforts and breakthroughs are advancing daily, requiring continued study. So I want to be able to continue my studies now.

Second, I want to acquire a lot of knowledge. To become a pharmacist, you must first pass the national examination. In the national examination, you will be tested on a total of seven subjects, including pharmacology and pharmaceuticals. In order to pass the exam, a wealth of knowledge is necessary, so I have to do my best to acquire that knowledge.

Third, I want to improve my communication skills. For pharmacists, communication skills are indispensable in order to ask various questions of patients and to cooperate smoothly with staff in the workplace. Therefore, I try to talk to people around me. I also want to improve my English communication skills, so last year and this year, I hosted foreign students on an exchange from England. It was very stimulating to hear about the British classroom environment, and jokes from the British students.

I would like to learn what I need to do to become a pharmacist, and especially to become a pharmacist who can help people, by doing my best in these three things. In the future, I'll become a pharmacist who can play an active role in the world, whatever it takes.

北谷中学校 3 年

平良 優名

私の望む未来

皆さんは自分が将来何をしたいか考えたことはありますか。私は中学 3 年生になり、自分の将来について以前より考えるようになりました。私は将来薬剤師になりたいです。これから私が薬剤師になりたいと思ったきっかけと、なるために頑張りたいことを 3 つ話していこうと思います。

私が薬剤師になりたいと思ったきっかけは小学 6 年生の時でした。私は、将来絶対に人を救える仕事に就きたい！と考えていました。その時、世界ではコロナウイルスが流行っていました。私は、罹ったら治療法がない事への恐怖や、友達とあまり遊べない事への不満など沢山の気持ちを抱えていました。そして、世界中で大流行していたコロナウイルスのワクチンが作られたとニュースで目にしました。それからコロナウイルスの感染者数が減っていったのを見て、薬に興味を持ち、私も将来薬を作って人を救いたい、助けたいと思うようになったことがきっかけでした。

私が薬剤師になる為に頑張りたいことの一つ目は、勉強を継続する事です。薬剤師は、覚えることもとても多いですが、仕事中に新薬を扱う機会もあり、効果や作用など様々なものが日々進歩し、勉強の継続が必要になってきます。その為今のうちに勉強を継続できるようにしたいです。

二つ目は知識をたくさん身につける事です。薬剤師になる為には、まず国家試験に合格しなければなりません。国家試験では薬理、薬剤などをはじめとした計 7 科目の試験を受けます。合格する為には豊富な知識量が必要になってくるので、それらを身につけられるよう頑張りたいです。

三つ目にコミュニケーション能力を高める事です。薬剤師にとってコミュニケーション能力は、患者から様々な事を聞き出す為に欠かせなかったり、職場のスタッフとの円滑な連携を取る為にも必要になってきます。その為、自分から周りの人達に対して会話をしよう心がけています。また英語を使ったコミュニケーション能力も高めていきたいと思い、去年と今年 2 年連続でイギリスからの留学生のホームステイを引き受けました。イギリスの留学生からは、イギリスの授業風景やイギリスのジョークなど沢山の事を聞きとても刺激になりました。

私は今挙げた三つの事を特に頑張りがちながら、薬剤師になるために必要な事を学んでいき、人を救える薬剤師になりたいです。そして将来は世界中で活躍できる薬剤師になりたいと思います。

Club Activities

Kuwae Junior High School
Yumeno Okuma

Club Activities! Why do we have club activities? For me they are an “invisible treasure chest”. It is filled with teamwork, friendships, hard work, confidence and even painful experiences.

When I joined the tennis club and played in my first double tournament, I was so nervous and worried about making errors that I was getting in the way of my partner, causing us to lose the finals. I was filled with regret and a feeling of guilt toward my partner. She supported me with words of encouragement. It motivated me to practice harder. “Team spirit” was put in my chest.

For the next tournament to my surprise I wasn’t selected as a member. I was so disappointed. After this everything went downhill, my performance, my friendship and my motivation. I still had the fear of letting down my teammates. The memory of failure was holding me back. I love tennis very much. I couldn’t go on like this. In order to achieve my goal, I needed to be stronger so I decided to enroll in a tennis school. I was devoted to my passion of tennis more than ever. I went through the tough training, physically and mentally. “Hard work” was placed in my chest.

In our next tournament I was in the new member group. At first, we were losing then my match came up. I gave all I had. I fought till the end and turned the table around placing us in 3rd place. I felt such a sense of accomplishment. I was so happy that it made me cry. “Perseverance” goes in my chest.

Club activities are more than just a fun place. They teach us the value of unity, working with others in reaching the same goal, learning to face emotional difficulties and believing in yourself. I will keep in mind the strength I have developed through this experience in everyday challenges. This treasure box will follow me throughout my life.

部活動

桑江中学校 3年
奥間 夢野

部活動。なぜ私たちは部活動をするのでしょうか。私にとって、部活動とは「見えない宝箱」です。そこにはチームワーク、友情、努力、自信、そして時には辛い経験が詰まっているからです。

テニス部に入部して初めての大会、ダブルスの試合で私はとても緊張していました。エラーを恐れてパートナーの邪魔をしてしまい、結果として決勝で敗れてしまいました。後悔とパートナーへの罪悪感でいっぱいになりましたが、彼女は励ましの言葉で私を支えてくれました。彼女の言葉は、私のモチベーションとへ変わり「チームワークの大切さ」が私の心に響きました。

次の大会で、私は思いもよらずメンバーに選ばれませんでした。とてもがっかりしたことを覚えています。それから全てが悪い方向へと向かってしまいました。パフォーマンスも友情もモチベーションも。そこには、チームメイトを失望させることを恐れる私がまだいました。失敗の記憶が私を引き止めていたのです。純粋にテニスが大好きな私・・・このままではいけないと感じました。目標を達成するためには、もっと強くなる必要があると感じ、テニススクールに入り練習に打ち込みました。厳しいトレーニングに対し、体と心の両面で乗り越えました。私の心に「努力」つまり「継続することの大切さ」が刻まれていきました。

次の大会で、最初は負けていましたが、私の出番がまわってきました。私は全力を尽くしました。最後まで戦い抜き、逆転勝利でチームを3位に導きました。涙が出るほど嬉しく、達成感で満ちあふれました。「粘り強さで成し遂げた喜び」が私の心に刻まれました。

部活動は単なる楽しい場所ではありません。それは結束力を学び、共通の目標に向かって他者と協力することの大切さを教えてくれます。また感情的な困難な自分に直面し、自分自身を信じきることを学ぶ場でもあります。この経験から得た強さを、日々の生活でも活かしていきたいです。部活動で経験した「見えない宝箱」は、これからの私の人生を後押ししてくれるでしょう。

The Importance of Expression

Chatan Junior High School

Yuri Takara

What has made you who you are today? I will tell you about the experiences that made me who I am today.

One activity that has been a big part of my life is theater. There is a theater company that is well known in the community by the name of "Nirai Children's Theatre Company." I have been a member it from fifth grade to the eighth grade. My dream was to become an actress, and I joined the troupe to get closer to that goal. I am convinced that what I have cultivated there is the foundation of what I am doing now. The foundations are the importance of expressing myself, the courage to be proactive in everything I do, and gratitude to my friends and family who have supported me and to the directors and staff who have guided me. Being able to always be aware of these things has helped me to be honest in my thoughts, words, and actions, and has led to a heightened sense of self awareness.

Now that I am preparing for entrance exams, I am not involved in the company, but I feel that I am able to use what I learned there in my everyday life at school and at home. I am currently the student body president of my junior high school thanks to what I learned in the troupe. I am courageous, proactive, and unashamed to express myself. I hope to continue working to bring excitement and joy to those around me. I believe that by utilizing what I have learned and experienced here, I will be able to convey my thoughts and feelings clearly to more people and accept various opinions and cultural differences.

Learning a foreign language is also important. Once, when I was in seventh grade, I was able to communicate in English with someone I normally would not have been able to communicate with. And I could understand them! From that day on, my goal was to become a global person who could be accepted not only in Japan but also around the world by acquiring English language skills.

Another important moment was when my homeroom teacher praised my English pronunciation. Although English was one of my favorite subjects, I was not very good at it. This praise was a turning point for me, and gave me confidence and interest in English.

I believe that my experience with the theater troupe and my ability to use English not only allow me to communicate with many people around the world, but also broaden my perspective on how I perceive things and how I think, and expand the range of my career choices in the future.

表現することの大切さ

北谷中学校 3年
多嘉良 由理

何が今のあなたを作ったのでしょうか？今の私を作った経験についてお話しします。

私の人生に大きな影響を与えた活動のひとつに演劇があります。「ニライ子ども劇団」という、地元では有名な劇団があります。私は小学 5 年生から中学 2 年生までその劇団に所属していました。私の夢は女優になることで、その目標に近づくために劇団に入りました。そこで培ったものが今の私の土台になっていると確信しています。その土台とは、自分を表現することの大切さ、何事にも積極的に取り組む勇気、そして支えてくれた友人や家族、指導してくれた演出家やスタッフへの感謝の気持ちです。これらを常に意識できるようになったことで、自分の考えや言動が素直になり、自覚が高まりました。

大変でしたが、舞台を見て感動したと言ってくれる人がたくさんいました。

受験を控えた今、劇団には所属していませんが、そこで学んだことは学校や家庭での日常生活に活かされていると感じています。現在、中学校の生徒会長を務めているのも、そのおかげです。私は勇気があり、積極的で、恥ずかしがらずに自分を表現することができます。これからも周りに感動と喜びを与えられるような仕事をしていきたいです。ここで学んだこと、経験したことを活かして、より多くの人に自分の考えや気持ちを明確に伝え、様々な意見や文化の違いを受け入れられるようになると思います。

そして外国語を学ぶことも大切だと思いました。中学 1 年生の時、普段は通じないはずの人と英語でコミュニケーションが取れたことがあります。そして相手を理解することができた！その日から、英語力を身につけることで、日本だけでなく世界でも通用するグローバルな人間になることが目標になりました。

もうひとつ大切だったのは、担任の先生に英語の発音を褒められたことです。英語は好きな教科のひとつではあったが、苦手は苦手でした。ですが褒められたことが私にとって転機となり、英語に対する自信と興味を与えてくれました。

劇団での経験や英語を使えるようになったことで、世界中の多くの人とコミュニケーションが取れるようになっただけでなく、物事の捉え方や考え方の視野が広がり、将来の職業選択の幅が広がったと思います。

Japan-my first observations

Kuwae Junior High School
Saskriti Sapkota

Namaste,

Yes, I am from Nepal. Have you ever experienced living abroad? Moving abroad can be scary yet it can enrich your everyday life. There are many reasons to move abroad-work, study, love, retirement or a better life. My parents came to Japan for work. Let me share with you my journey.

My brother and I came to Japan 3 years ago. After 8 years of separation from my parents I was really excited.

Tokyo. You can imagine how overwhelmed I was at all the skyscrapers, the people, the sound, the lights and food...My first Japanese meal was ramen. At that time, I thought it was so-so, now I love it. As you can see, my welcome to Japan was a roller coaster of emotions.

Finally, I could see where my parents were living. Chitan. Wow! I had never seen such a beautiful sea. In Nepal we don't have an ocean, we are known for our mountains. Seeing the ocean made me forget all my worries.

My first day of school was kind of weird. Knowing nobody made me really nervous. Making friends and connecting with others are all part of the challenge you will face. I quickly got used to the environment with the kindness and support of my classmates. They help me in many ways, especially with the language.

There are many differences between schools in Japan and Nepal. We do not have separated schools for elementary-junior or high school. Instead we have one huge school from kindergarten through 12th grade. The 2 most shocking things for me were that girls are not allowed to wear earrings and we are not allowed to bring snacks.

Moving to Japan has broadened my knowledge. With an open, positive and curious mind, I discovered new things and challenged myself. I appreciate and respect cultural differences. No matter, what your reason is, living abroad is worth it.

初めての日本、初めての感情

桑江中学校 3年
サブコタ サスクリティ

ナマステ、

私はネパール出身です。皆さんは海外での生活経験がありますか。海外での生活は怖い面もありますが、日常生活を豊かにしてくれると思います。仕事、勉強、恋愛、引退、より良い生活を求めてなど、様々な理由で海外に移住することがあります。私の両親は仕事のために日本に移住しました。これから、私の日本での経験についてお話ししたいと思います。

私と弟は3年前に日本にやってきました。両親と8年ぶりの再会で、とてもワクワクしました。日本と言えば東京・・・高層ビル、賑やかな人々、音、明かり、そして食べ物に圧倒されました。初めての日本食はラーメンでした。最初はまあまあだと感じましたが、今では大好物です。私の日本での最初の印象は、感情のジェットコースターでした。

やっと両親が住んでいる場所、北谷を訪れることができました。うわ、こんな美しい海を見たことがない、そう感じました。ネパールは山で知られていますが、海はありません。北谷の海を見た瞬間、これまでの心配事が吹き飛びました。

初めての学校生活は、少し戸惑いました。知り合いがいなかったのもとても緊張しました。友達を作ることや他の人とつながることは直面する課題のひとつですが、私は、クラスメートの親切さとサポートのおかげですぐに慣れました。特に言語面では助けられました。

日本の学校とネパールの学校には多くの違いがあります。ネパールでは、小学校、中学校、高校まで同じ学校で過ごします。日本は違います。私にとって最も驚いたこと、それは女の子がイヤリングをつけてはいけない事やおやつを持ち込むことが許されていない事です。

日本への移住は、私の知識を広げてくれました。オープンでポジティブ、そして好奇心旺盛な心を持ち、新しいことに挑戦することで、文化の違いを尊重することができました。理由は何であれ、海外で生活することは価値のあることです。経験して分かった私の想いです。

My dream

Chatan Junior High School

Himeru Taniguchi

My dream is to become an obstetrician and gynecologist. I've wanted to be a doctor since I was a child. When I was in the third grade of elementary school, I witnessed the birth of my younger brother. It looked very painful for my mother from the onset of labor until the birth, and I felt very anxious as I was still young. However, I felt that my mother's risking her life to give birth was very mysterious and miraculous. I was so happy that I cried when my younger brother was born safely. Since then, it has become a dream that I could never give up.

Then, when I became a third-year junior high school student, I decided to think about what I should do to make my dream come true. First of all, I have to work hard at studying. I'm the worst at English. I'm interested, but I'm not good at it. I think that overcoming it is an issue that I should strive for in order to interact with various people and acquire wide values in my future life.

At Chatan Junior High School, both literary and martial arts are the theme of the school, and they are focused not only on studying, but also on club activities. Doing my best in club activities is also one of the things I should do now. I belong to the basketball club, and train every day. There was a lot to learn about the club. It was so hard that I wanted to quit many times, but I feel that I have gained patience by working hard without giving up, and I'm really glad that I have continued.

Finally, completing my student council activities is also an important experience of my life design. As the vice president of the student council, I am involved in the management of the school, and I am doing various activities, such as setting up an opinion box where I can listen to students' opinions. It's easy to use if you want to say your opinion. One of my goals is to put it into action and see it through to the end with a sense of responsibility.

From now on, as long as I'm aiming to be a doctor, I think I'm preparing for a long and painful fight with myself. Still, I will definitely make my dream of becoming an ob/gyn come true.

私の夢

北谷中学校 3 年

谷口 姫琉

私の将来の夢は産婦人科医になる事です。物心ついた時から医者になりたいと思っていました。小学校 3 年生の頃、弟の出産に立ち合いました。陣痛がきてから出産まで母はとても苦しそうで、まだ幼かった私はとても不安な気持ちになりました。

でも、母の命がけの出産はとても神秘的であり奇跡だと感じました。弟が無事に生まれた時は涙が出るほど嬉しかったです。

それ以来、絶対に諦めきれない夢となりました。

そして中学校 3 年生になり、夢を叶えるためにはどんなことをするべきか考えることにしました。まずは、勉強を頑張らなければいけません。私は全教科の中で英語が一番苦手です。興味はあるのですがどうしても苦手意識があるのです。そこを克服することは、今後の人生において様々な人々と接し広い価値観を身に付けるためにも、努力すべき課題だと考えます。

また、北谷中学校では文武両道を学校のテーマとしており、勉強だけでなく部活動にも力をいれています。部活動を頑張る事も、今私がすべきことの一つです。

私はバスケットボール部に所属し毎日練習に銀練しています。部活動は学ぶことがたくさんあります。何度も辞めたくなるほど、辛い思いもしましたが、きつい練習を諦めずに努力するとこで忍耐力がついたと感じるし、続けてきて良かったと心から思います。

最後に、生徒会活動を全うすることも私の人生設計の大事な経験です。

生徒会副会長として学校の運営に関わったり、学校の生徒の意見を聞くことのできる意見箱の設置をしたり、様々な活動をしています。意見を言うだけならば簡単です。それを行動に移し、責任感をもって最後までやり遂げるというのも、わたしの目標の一つです。

これから先、医者を目指す以上、長く辛い自分との闘いが待ち受けていると思います。

それでも、産婦人科医になるという夢を絶対に叶えてみせます。

英国派遣交流及び視察研修

1 英国訪問のねらい

- (1) 北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。
- (2) 英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。
- (3) 英国の中等学校生徒との交流を深めることで、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。

2 実施期日、目的地、訪問先等

- (1) 実施期日 2024年11月14日（木）～11月22日（金）
- (2) 目的地 英国ディーン・マグナスクール及びその近郊
グロスターシャー州 ミッチェルディーン

3 英国訪問団氏名

引率	北谷中学校	教諭	ストール 正枝
	桑江中学校	教諭	久高 将嗣
中学生	北谷中学校	2年	大嶺 聖司
	北谷中学校	3年	島袋 愛彩
	北谷中学校	3年	平良 優名
	北谷中学校	3年	多嘉良 由理
	北谷中学校	3年	谷口 姫琉
	桑江中学校	3年	奥間 夢野
	桑江中学校	3年	宮里 成輝
	桑江中学校	3年	安田 姫栞

※サプコタ サスクリティさんは、英国ビザを取得出来なかったため、派遣辞退

4 緊急連絡先

北谷町教育委員会 電話:098-982-7705
FAX:098-936-3491
北谷町立北谷中学校 電話:098-936-3929
FAX:098-936-0171
北谷町立桑江中学校 電話:098-936-2244
FAX:098-936-0172

5 交流校の連絡先

ディーン・マグナ・スクール(**Dene Magna School**)

住所: Abenhall Road, Mitcheldean, Gloucestershire, GL17 0DU

電話: +44 1594-542370 FAX: +44 1594-544862

校長: Mr. Declan Mooney (デクラン ムーニー)

国際交流担当: Phoebe (フィービー) 先生、Harry (ハリー) 先生、Lynne (リン) 先生、Sam (サム) 先生

6 現地旅行社連絡先

会社名: JALPACK INTERNATIONAL(EUROP)B.V. 時間: 9:00-17:30(現地時間)
住所: 4TH FLOOR, STANDON HOUSE, 21 MANSELL STREET, LONDON E1 8AA, U.K.
電話: 020-7264-5193 FAX: 020-7264-5195
緊急連絡先: 07968-629-937

* 在英国日本大使館・総領事館 *

受付時間 9:30-16:30

住所: 101-104 Picadilly London W1J 7JT

電話: 020-7465-6500

FAX: 020-7491-9348

7 英国訪問の心得

(1) 基本的な心構え

- ① 健康・安全に十分気を付けましょう。
- ② 身なり服装は、きちんとする。言動にも気を配り、マナーを守りましょう。
- ③ 忘れ物がないように前日までに必ず準備しておきましょう。
- ④ 見学時間は厳守し、礼儀正しく、いつでもどこでも集合時刻、集合場所を確認してから行動しましょう。
- ⑤ 英国の学校との楽しい交流ができるように、よく事前学習をしておきましょう。
- ⑥ 毎日の様子が記録できるようにメモ帳を持っておきましょう。
- ⑦ 貴重品は、大切に保管しましょう。
- ⑧ 就寝時間、起床時間を守りましょう。

(2) 保健的な心得

- ① 衣服の調節に気を配りましょう。
- ② 寝冷え、暖房での乾燥に気を付けましょう。
- ③ 偏食しないでなんでも食べるようにしましょう。
- ④ 飲み過ぎや食べ過ぎに気を付けましょう。
- ⑤ 水道水などの生水や、生ものは避けましょう。
- ⑥ 薬は普段使用しているものを持っていきましょう。

(3) 乗り物酔いについて

- ① 寝不足をさける。
- ② 乗り物酔いの先入観を捨てる。友達とおしゃべりしたりして気分転換を図る。
- ③ 空腹の状態で乗り物に乗らない。
- ④ 近くを見ないで、遠くの景色を見るようにする。
- ⑤ 気分が悪くなりかけたら寝る。

(4) 非常時の心得

- ① いかなる場合でも異常が発生したときには、先生または添乗員に速やかに連絡する。
- ② 慌てず、騒がず、落ち着いて添乗員及び引率者の指示に従って行動する。

8 スケジュール

11/14 Thu	沖縄～羽田
13:00 集合	那覇～羽田 ANA470/15:05-17:25 羽田にて前泊 ホテル東横 INN 羽田 1 号館
11/15 Fri	羽田～ヒースロー空港着～フォレストオブディーンへ
AM PM	ANA211/10:00-15:40(14 時間 40 分) ロンドン ヒースロー空港着 交流校のバスにてホテルへ ディーンマグナスクール近郊のホテルにて夕食&宿泊 「The Royal Hotel, Ross on Wye」 住所 Royal Parade, Ross-on-Wye, UK HR9 5HZ
11/16 Sat	ホストファミリー対面式・ファミリーデイ
午前 10:00 終日	ホテルで朝食後, そのままホテルでホストファミリーと顔合わせ ファミリーデイ ●ホームステイ 1 日目
11/17 Sun	ロンドン市内へ視察研修
全日	1 マイクロバスにてロンドン市内へ。視察研修 (DMS 交流メンバー・引率者・ホストファミリー保護者含む) ●ホームステイ 2 日目
11/18 Mon	ディーン・マグナ・スクール
全日	ディーンマグナスクールにて 1 歓迎会、学校ツアー、授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 ホスト生徒と授業参加 ●ホームステイ 3 日目
11/19 Tue	授業参加／ディーン・マグナ・スクール
午前 午後	1 引率：DMS SixForm（高校）訪問、生徒：DMS 授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 チェプストー城見学 ●ホームステイ 4 日目
11/20 Wed	ディーン・マグナ・スクール・小学校／グロースター
午前 午後	1 授業参加、小学校訪問 2 ランチ&アフタヌーンティー 3 グロースター大聖堂見学へ ハリーポッターの撮影場所にもなったところ。 4 レストランにてお別れ会ディナー ●ホームステイ 5 日目
11/21 Thu	ヒースロー空港へ
午前 午後	1 ウィンザー城視察 近郊にてランチ 2 ヒースロー空港へ 第 3 ターミナルにて搭乗手続き ロンドン～羽田 ANA212/19:00-17:55 ●機内泊
11/22 Fri	機内にて日付変更
午後	羽田～那覇 ANA479/ 20:15-23:00 約 1 時間遅れで那覇到着！お疲れ様でした♪

英国派遣を終えて

北谷中学校 2年 大嶺 聖司

11月15日から11月21日までの7日間、私は北谷町英国派遣団の一員としてイギリスへ派遣されました。多くの経験をさせてもらいましたが、初めての海外への旅、初めてのホームステイ、そして一番の大きな壁である言語の違いなどがあり、不安なことがたくさんありました。また、私は唯一の2年生という心配もありましたが先輩方が優しくしてくれて、それは安心に変わりました。



14時間という長いフライトが終わりイギリスのヒースロー空港に到着すると、ディーンマグナスクールの先生が迎えに来てくれていてイギリスにいるんだという実感がだんだん湧いてきました。次の日はいよいよホストファミリーと会いました。送られてきたザックの情報に写真がなかったので顔がわからない状況で迎えに来てくれた時どれがザックかもわかりませんでした。はじめはとても緊張していましたがホストファミリーがとても優しくたくさん話しかけてくれて緊張はすぐにほぐれました。私のホストファミリーはホワイト家族でした。家族構成はお父さん、お母さん、お兄さん、同級生のザック、弟、そして3匹の猫と1匹の犬でした。ザックとはバスケットボールという共通の趣味があり、初日に家に荷物を置いた後すぐに公園に行きバスケットボールを一緒にしました。ザックから「いつからバスケットボールを始めたの?」、「好きなバスケットチームは?」など聞かれて簡単な英語で答えることができたときに「あ、英語で会話している、しかも英語しかわからない人と会話している。」と思うすごい経験をしているなと感じました。私とザックは時間を忘れて2時間ほどバスケットをしていたらいつの間にかとても仲良くなっていました。その日の夜ご飯は一番楽しみにしていたフィッシュアンドチップスを食べました。とてもおいしかったです。その後2階建てのバスに乗ってサッカーの試合を観戦に行きました。試合は迫力があり興奮しましたが、何よりも驚いたのはスタジアムのトイレの仕切りがなかったことです。文化の違いをとっても感じました。夜は次の日が朝早いからといって9時には眠っていたので生活習慣もいいな、と思いました。



2日目はロンドンに観光に行きました。ロンドンに到着すると早速電話ボックスやビッグベン等々有名なものがたくさんあって興奮しました。私たちはまず、船のツアーに参加しました。船からは観覧車やロンドンブリッジ、ザックが説明してくれた有名な建造物や銅像などを見ました。この2日間で、英語で話す恥ずかしさがなくなってコミュニケーション力が一気に上がった気がしました。この日はホストマザーの誕生日でもあり、みんなでハッピーバースデーも歌いました。

3日目からはディーンマグナスクールに行き、朝食が準備されていてクロワッサンもあったのですが、イギリスの人たちの発音が「くおろさーん」という感じでかっこよかったです。食べ終わるとすぐにプレゼンテーションの発表をしました。ディーンマグナスクールの生徒たちは、先生が「Be quiet, please.」というほど盛り上がりしてくれました。ディーンマグナスクールでは授業中にスマホをいじったり寝たりする生徒がいなかったのが日本よりも校則がゆるくて自由なもの納得でした。そして見習わないといけないな、と思いました。授業中質問があったら手を挙げて静かに待っていて日本と違うなと思いました。授業の始めと終わりの明確な挨拶がなくて「ジリジリー」というベルの音で行動していました。なので急に授業が終わったりして少し戸惑いました。

2 教科授業があり 20 分くらい休憩がありました。その間はスナックタイムでしたが私は外でみんなとバスケをしていました。デインマグナスクールは生徒たち同士も仲が良く、私にも優しく話しかけてくれました。昼ご飯はカフェテリアで好きなものを好きなだけ食べられました。パスタはソースを選べて私はミートソースにしたのですがとても美味しかったです。家に帰ったらザックと弟のロリーと 3 人でスプラトゥーン 3 をしました。まさか僕がやっているゲームをイギリスでやるとは思いませんでした。ロリーとはこれを機にもっと仲良くなれました。夜はみんなでボウリングをしに行きました。とても盛り上がり、他のホストファミリーとも仲良くなれました。4 日目は朝起きると雪が積もっていました。少しだったけど家の庭に雪が積もっているのは私にとって信じられないことでした。この日からはバスで通学しました。バスの中でもザックの友達たちがたくさん話しかけてくれて優しい人がたくさんいるな、と思いました。この日はアフタヌーンティーを経験しました。おしゃれな皿に綺麗に並べられていて雰囲気がイギリスという感じでした。昼は英国派遣団と来年沖縄に来るフィービー先生とハリー先生とチェプストウ城に行きました。城が大きくてとても迫力がありました。城の隣には森や川があったり、いろんなところに穴が開いていたり迷路のようで昔の戦いの時とかに役立っていたんだろうなと思いました。夜は私とザック、あいさ先輩とフレディーで忍者プレスに行きました。私はサスケを年末に TV で見ていてやってみたい、とずっと思っていたのでそれがまさかイギリスで叶うとは夢にも思いませんでした。TV で見ていたようなものをやってみたら見るだけじゃわからなかった難しさがありました。その後近くのスーパーに行きました。スーパーの中はとても広くて、まだ行ったことがないけどコストコみたいだなと思いました。5 日目は起きると大雪が降っていて昨日の何倍も積もっていました。この日は小学校に行きました。子供たちが歌を歌ってくれたり、ダンスを踊ってくれたりしました。休み時間は 4 年生ぐらいの子が「My favorite」みたいなことを言って私にチョコの入っているパンをくれました。優しいなと思いました。その後は生徒たちと走り回って雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりしました。お別れをした後グロスター聖堂に行きました。建物の外も中もハリーポッターの世界で、ここにいるだけで魔法が使えるような気分でした。夜はザックの部活に参加しました。みんな優しくて、シュートが入ると盛り上がりくれました。私のチームと練習の仕方や戦い方が違っていて少し戸惑いましたが、ザックに教わりながら楽しくできました。最終日は家族で写真を撮り、学校に行きました。最後にサマンサが「いつでも戻ってきてね」、「あれはあなたの家よ」、「I miss you.」などと言ってくれとても嬉しかったです。ザックとも最後にハグをしてまた沖縄で会おうと約束しました。ホワイト家族にはホームステイさせてくれたり、いろんなことをしてもらって感謝の気持ちでいっぱいです。一週間という短い期間ではあったけど一生に一度できるかできないかくらいの経験をたくさんすることができ、忘れられない思い出を作ることができました。私はこの英国派遣から日本との文化の違いやイギリスの人達の温かさ、スポーツやゲームは一生の友達を作る助けになること、そして何よりも挑戦をする大切さを学びました。将来はこの経験を活かしてたくさん挑戦をして北谷町に貢献していきます。そして今度は自分の力でイギリスに行って交流をしたいです。1840 年の 8 月にインディアンオーク号が北谷町に漂着したときにイギリスの人たちを助けてあげた先輩たちにも感謝しています。そして今回こんなにも素晴らしい経験をさせてくれた北谷町、引率の先生方と先輩たち、イギリスの先生や生徒、ホストファミリー、サポートしてくれた家族にも感謝しています。本当にありがとうございました。





Lovely Experience

北谷中学校 3年 島袋 愛彩

個性豊かなメンバーが集まった私たちは7泊9日と短い期間ですが異国の地、イギリスでたくさんの濃い経験を得てきました！

5月の募集期間から6ヶ月が経っての出発だったので、出発の日『行くぞー！』という気持ちより『本当にいくの？！』という現実とは思えない気持ちで、ずっとワクワクしていました。また、ハリーポッターが大好きでその世界に行くと考えたら「生きていてよかった」「この事業に挑戦してよかった」と思いました。私たちは、イギリスに出発する前に東京で一泊したのですが、その夜はみんなで夜遅くまでカードゲームをしたりおしゃべりをしたりとより仲を深めることができました。イギリス行きのフライトは15時間と長いフライトで、映画を見てもまだ5分の1と、本当につくのかなと思いつつもお隣さんとおしゃべりしたり自分なりに楽しみました。ヒースロー空港に到着した時、色々な所に英語表記が掲示され、英語が行き交っていて、海外だ！とテンションが上がりました。また、外に出てみると、みなでずっと「白い息だ！」と連呼しながら、沖縄では感じられることのない、ロンドンの寒さを実感して、とても嬉しかったです。DMSの先生が迎えに来てくれて、ホテルまでの2時間の移動をバスで送ってくれました。ホテルまでの移動中、はじめ、車の揺れでキャリーケースが落ちそうなときみなで「カーブきまーす！！」と声を掛け合ったりして、いろいろと車内忙しかったのですが、周りも暗く、長いフライトの後だったので忙しかったバスの中も静かになり、私も気づくと疲れて寝ていました。ホテルに到着しすぐにイギリスでの初の食事で、日本では、「イギリスの食事はあまり美味しくない」と聞いていて、どんなかなーとワクワクしながらも、自分の口に合うのか、少し心配だったのですが、いざ食べてみると、フライトの疲れが吹っ飛ぶくらい美味しくて、「なんで美味しくないって言われているの？！」とずっとびっくりしていました。食事はとても美味しかったのですが、意外に量が多く、「まだあるの？！」とびっくりしたのもいい思い出です。また、沖縄からずっとみんなで話題にしていた「イギリスの水は硬い」ということが本当で、ずっと言葉に表せられない、硬さが面白く、水を飲んだり、考えたりをみんなで繰り返していたことが楽しかったです。ホストファミリーに会う前日、夢野と私のパートナーが男の子で、正直、不安でいっぱい、みなで「大丈夫！」「楽しもう！」と声を掛け合って、安心し声を掛け合える仲間がいてよかったなと感じました。

ホストファミリーに会う朝、ワクワクの気持ちと、今からは仲間と離れて、一人で行動するという緊張、自分の英語力への不安が今になって出てきて、複雑な気持ちでいっぱいでした。どんどんみんながそれぞれのファミリーと行動していくなか、パートナーのFreddieの顔がいまいちわからず、HarryとFreddieの区別がつかなかったのも、今では印象深い思い出です。そして、Freddieの第一印象は「本当に同級生？身長高っ！！大人っぽい！」でした。Freddieがキャリーケースを持ってくれ紳士でびっくりして、「これがイギリスのジェントルマンか」と一人で思っていました。Freddie、お母さんのZoeさんとお父さんのPaulさんはとても親切で、車の中で沖縄のことなどいろいろな質問をしてくれて、緊張していたけど、いつの間にかそれもなくなくなって、会話することが楽しく、また、コミュニケーションを取ることができていること自体嬉しく、不安もあったのですが、もっと話したいという気持ちでいっぱいでした。また、自分から積極的に話しかけることで、より楽しくなり、自信にもなりました。やはりイギリス英語のアクセントは癖が強く、普段

感じる事のない英語で、聞き取れないことも多くあったけど、新感覚で話していて楽しかったです。この日は、丸一日ホストファミリーデーで、たくさんのところへ連れてってもらいました。はじめに行った、ディーンオブフォレストのセンターは、名前の通り、周りは高い木がたくさんで、赤色や茶色と、色とりどりの木がとても綺麗でした。そのあと、カフェに行きました。日本のカフェより、アットホームな感じで、床で普通に子供たちが遊んでいるのがびっくりしました。私は、紅茶とケーキを頼んだのですが、紅茶は想像と違い、自分で入れるスタイルで、ポットも大きく、やっぱり本場の紅茶は美味しく、甘いケーキにもよく合いました。私にとっての紅茶は甘い紅茶で、はじめの頃は絶対に砂糖を入れないと飲めなかったのですが、本場の紅茶を毎日のように飲んでいたため、気づいたら紅茶=NO 砂糖の考え方になっていたことが自分でもびっくりです。そのあと、ハリーポッターの撮影地であるグロスター大聖堂とその周りに行ったのですが、その中は、とても複雑な構造で、本当にハリーポッターの世界、全てに感動しました。周りの街全体がクリスマスモードで、本場のクリスマスは豪華で、一足先にクリスマスを味わいました。その晩驚いたことが、ホストファミリーが10時には就寝することで(朝にお風呂入るのも関係している)5日間ずっとそうだったので、私もその習慣になり、健康的な習慣で見習うべきだなと思いました。もう一つ驚いたことが、午後5時くらいには周りが暗くなり、朝の7時にしか明るくならないことで、日本より冬の昼が短いことにびっくりでした。2日目にみんなで行ったロンドンでは日本の都会とは雰囲気の違い、落ち着いていて歴史的な景観がたくさんでどこを見ても新感覚でした。また、ユニクロの二段バスを偶然見つけ日本の企業の進出を実感しながら、日本のものに出会えて嬉しかったです。

3日目の初のDMS(ディーンマグナススクール)登校の日、雪が降っていて、初めてのたくさんの雪は感動し、とても寒かったのですがとてもワクワクの朝でした。登校すると多くの生徒が雪遊びをしていて、沖縄では絶対に見ることのない景色で面白く、私も全力で楽しみました。また、みんなでプレゼンテーションと空手を披露したのですが、その後「空手教えて!」と言われることが多く、より沖縄の文化を誇ることができ、受け入れてもらっていることが嬉しかったです。実際にDMSで多くの授業を受けたのですが、学校の雰囲気が全てと言っていいほど日本の学校と違い、より先生が生徒に寄り添い、自ら積極的に質問する人が多く、大学の授業を受けているようでした。また、学校すべての施設が最先端で驚きでした。憧れのカフェテリアは、思っていた10倍くらい種類が豊富で、とても美味しく、学年関係なくホールで食べるためとても楽しかったです。そこでも、無料で、栄養豊富な北谷の給食がありがたく感じて、恋しく思っていました。不安だらけの学校だったけど、Freddieがずっとそばにいてくれたおかげで、たくさんの友達、交流ができ、楽しい学校生活でした。最後の夜、今日もいつものようにホットティーを飲んでフレディーとゲームをして遊んでいたら、サプライズといって、私の家族が去年沖縄で受け入れた、エレクトラを家に呼んでくれみんなで1時間くらいおしゃべりしたのですが、特に盛り上がった話が、日本での定番のポーズはピースだけど、イギリスでの意味はあまりよくないという話で、文化の違いをより実感しました。

ホストファミリーとのお別れの日、5泊ととても短い期間ですが、今日もこの家へ帰ってくるようで、日本に帰るということを受け入れるのが難しく、学校への道もやっと覚えただけなのにと思いつつ涙が溢れてきて、学校の隣にある、おばあちゃんの家に着き、おばあちゃんが出てきて「またねー」とハグをしてくれて涙が止まらなくなり、寒さを忘れるほど泣きました。学校でみんなに会い、泣いているのを見て、もっと涙が出てきて、ZoeさんとFreddieに「大丈夫?」と言われるほどでした。Zoeさんが「ここにいつでも戻ってきてね。」とずっと泣いている私を抱きしめ



ながら言ってくれて、「明日でも、すぐに戻ってきます。」とおしゃべりしていました。バスに乗った後もみんなでバイバイして、バスの中は大号泣で「see you again」を流して思い出を語り会いました。

24:00と夜遅くに沖縄に着いて途中でハプニングが多々ありましたが、無事 FUNNY な仲間達と北谷に（帰りたくない気持ちでたくさんだったのですが）帰国できてよかったです。沖縄に帰ってきてからの、1・2週間は、逆ホームシックになったほど、イギリスでいい体験ができたと思っています。もちろん最初は不安もたくさんあったのですが、こんなにいい思い出を作れたのは、私を受け入れてくれたホストファミリー、事業を企画してくれた教育委員会をはじめとした大人の皆さん、近くで応援して支えてくれた家族、共にがんばった仲間たちのおかげだと思うので本当に感謝でいっぱいです。イギリスでできた、友達や家族と離れるのは、とても悲しく、つらいことでしたが、この経験でたくさんの方に気づくことができました。まずは、北谷、沖縄、日本の良いところに気づけたことで、普段当たり前になっていることが海外ではダメなこと、当たり前ではないことがたくさんだと実感し、より地元を大切にしなければならないことがわかりました。二つ目が偏見だけではわからないことがいっぱい、自ら世界に出てみないと感じられないことがたくさんあるということで、「百聞は一見にしかず」を実際に感じることができ、今までより海外にいきたい！世界を見たい！と思うことができました。また、1番大きい気づきになったことが、自分を信じて「失敗を恐れず、新しいことに挑戦する」ことは人生を生きていく中で大切なことで、絶対に大きなものを得ることができ、自分の世界を広げることができる大切なことで、私は、はじめ英語に興味がなく苦手教科でもありましたが、友達が英検に受かったことを知り、「自分もできるんじゃない？」とノリで英検をやってみると、どんどん英語力が上がっているのを実感していく度にはまっていき、今、実際海外に出て素敵な人たちと出会い、新たな景色を見、一生の宝物を得ることができました。この経験を活かし、この先もいろいろなことに積極的に挑戦していき、将来は世界で活躍できる医者になると、より強く思います！！



英国派遣を終えて

北谷中3年 平良 優名

私たち10名は11月14から11月22日にかけて、北谷町の代表として英国に派遣されました。11月14日、私はこの日緊張と不安、楽しみ！という気持ちでいっぱいでした。みんなと那覇空港で集合した時、みんなの顔を見てみると、みんなも期待を膨らませているような顔をしていました。飛行機の待機時間の中、みんなでワードウルフをして、とても楽しく盛り上がりました。東京に着いた時、The Tokyo!という感じがしてすごかったです。この日の夜ご飯はみんなで夜のお散歩をしながらコンビニに寄りご飯を買い、初めての経験だったのでとてもワクワクして楽しかったです。ホテルに帰った後、少し遅くまでみんなと集まりカードゲームやお話をして、夜更かしをしてしまい心配になりましたが、みんないざとなれば飛行機の中で寝れば行ける！というような答えが返ってきて面白かったです。



2日目、いよいよこれからイギリスに行くんだ！と胸を高鳴らせながら飛行機に乗り込みました。飛行機の中では、どれだけ寝てもまだ9時間・・・まだイギリスに着かないと絶望を感じていました。ですが、私の気持ちを落ち着かせるには充分すぎる時間でした。イギリスに着いた時私は周りの景色全てに驚かされました。日本とは外観が全く違う様子に本当にイギリスなんだ！と興奮しました。ホテルにやっと着き、この日はとてもぐっすり眠れました。



3日目、いよいよホストファミリーとの初対面の日、とても緊張していて最初は上手く喋れなかったですが、だんだんと話せるようになっていき次第に緊張もほぐれていきました。家に帰った後、バスと一緒にしたマリオカートは人生の中で一番楽しかったです。

4日目はロンドン観光で、建物のスケールの大きさにとても驚かされました。大英博物館では、モアイ像やロゼッタストーンなど、この先もう拝めないだろうというものがあるのが沢山で新鮮で面白かったです。お土産もいっぱい買えて、たくさん観光もできてとても楽しかったです。

5日目、この日はいよいよディーンマグナススクール初登校の日、プレゼンテーションは成功できるか、学校でやっていけるか、と不安でいっぱいでした。ですが実際行ってみるとみんな優しく、目が合うと微笑みかけてくれ、

とても紳士的でした。学校終わりには、バスに前日、連れて行ってほしいと伝えていた、ディーン・の森に連れて行ってくれました。

6日目、この日は雪が降っていて人生初めての雪を経験する事ができました。学校に着くとみんな雪合戦をしていて、バスに混ざってきても大丈夫か聞くと ok と言われたので、みんなで一緒に雪合戦をしました。

7日目、今日でホストファミリーと過ごせるのが最後の日というのが信じられなくてとても悲しくなりました。グロースター大聖堂では一緒に沢山写真を撮りました。お別れディナーでは、他のホストファミリーの子とも喋れたりして、楽しかったです。この日家に帰るとずっと渡せなかったお土産を渡すことができ、とても喜んでくれて嬉しかったです。片付けや手紙を書いていたりして寝るのがとても遅くなりました。



8日目、朝起きると私がお土産としてあげたぬいぐるみをタリアが使っているのを見て嬉しさと、もうタリアと会うのは最後なんだ、と悲しい気持ちが込み上げてきました。

学校に着くとみんな大号泣、私も少し泣いてしまいました。そして、お別れの時ホストファミリーがハグしてくれて、また会いましょうと言ってくれ、そこで泣き喚きました。駄々をこねる子供のように泣いて、バスとは4回もハグをしてそのたびに泣いてしまいとにかく泣き喚きました。ウィンザー城の見学では、各自で昼食をとるシステムで、自分1人で注文ができ英語力が上がったと実感できて嬉しかったです。見学



し終えた後、これから帰るのはホストファミリーの家ではなく日本なんだと思い、さらに泣いてしまいました。帰りの飛行機はあっという間で11時間と表示されていた数字が、一気に3時間まで減っていました。沖縄に帰った時、見覚えのある「めんそーれ」が見えて安心した反面もう戻れないんだなと少し悲しくなりました。

私はこのイギリス派遣で、一生の宝物となる沢山の思い出ができました。私たちにこの機会を与えてくれた人たちにいつか還元できるようにこれからも沢山のことを学んでいきたいです。そして、将来はまたイギリスに行き、バスたちと再会したいです。本当に短い9日間でした。

英国派遣を終えて

北谷中学校3年 多嘉良 由理



私たちは、11月14日から11月22日まで9日間、北谷町の代表としてイギリスに行ける機会を得ることができました。私にとって初めての外国がイギリス！というすごく貴重な体験をさせてもらいました。

イギリスに行く前から準備の段階でメンバーとは情報交換はしていたけど、那覇空港から飛び立って帰ってくる間には、よりみんなとの絆が深くなったと感じました。

毎日グループラインで今日こんなことがあったよ！とか次の日の日程の確認など連絡を取り合い、安心してイギリスでの生活を送ることができました。

ご飯のことやホームシックにならないかと最初は心配していたけど、いざホストファミリーと過ごしてみると、ご飯はすごく美味しくて、ホストファミリーが自分のことを気にかけてくれて、コミュニケーションをとることができたので全くホームシックになりませんでした。

ホストファミリーと初対面の日にはペアの子の習い事について行ったり、クリスマスマーケットに連れて行ってもらいました。グロスター大聖堂のところにクリスマスマーケットがあり、イルミネーションのライトアップがとても綺麗で、屋台は試食が多く、みんなが楽しみながら買い物をすることができました。

2日目のロンドンでは、バッキンガム宮殿の衛兵交代式を見たり大きな公園を散策したりしました。公園では野生のリスがいて、とても人懐っこく、人の手からエサを食べるほどでした。

次の日、初めてのディーンマグナスクール登校です。朝、学校で朝食をとり、すぐに私たちのプレゼンテーションが始まりました。多少のトラブルはありましたが、楽しくクイズ大会を終えることができました。学校にきて思ったことは髪型や染髪・アクセサリ・メイクが自由であることです。赤色に髪を染めている人や、パーマをかけている人などたくさんの個性が溢れていてとても楽しそうでした。授業では、寝ている人など1人もおらず、返事や意見の出し方がはっきりしていて、みんなの考えを発表し合うので1回1回の授業のクオリティが高いなと感じました。放課後には森に行って写真を撮ったり、ホストしてくれている何家族かでボーリングに行きました。他のホストファミリーとも多く関わってみんなと仲良くなることができました！ゲームセンターだったので他にもマリオカートをしたり、すごく充実した日になりました。

学校2日目は、初めてのアフタヌーンティータイムがあり、ティーはもちろん！サンドイッチやスコーン・パイなどたくさん美味しい食事がありました。午後にチェプストー城の見学があり、戦争時の時代背景など建物から分かることも多くあり、イギリスの歴史についてもっと知りたくなりました。



学校3日目は、近くの小学校を見学しに行きました。生徒会の子たちが校内を案内してくれて、少しだけ授業にも参加しました。習ったことのある範囲の授業だったので理解に苦しむことなく授業が受けられました。また、休み時間には校庭に出て、みんなで鬼ごっこや雪合戦を全力で楽しむことができました。

イギリス最後の日、車の中で泣きはじめてしまいました。学校ではみんなと合流してお別れしたくなくてたくさん泣きました。拭いても拭いても涙が出てきて先生に笑われるくらい泣きました。たくさんハグをして写真撮って、いやいや、お別れをしました。そのあとエリザベス女王が休日に訪れていたとされるウィンザー城の見学をしました。そこは警備体制もすごくて、いたるところに警備員さんがいました。そこでランチは各自でとることになったとき、私は、1人でお店に入り、1人で注文し、昼食を済ませることができた時に自分の英語の上達を感じました。店員さんの話を聞くこともでき、物怖じせず話すことができたのでとても幸せな気持ちになりました。

私は、この英国派遣に参加してとても学ぶことが多く、異文化での生活がこんなにも楽しいことや何事にも恐れずチャレンジできる精神を育てることができました。今回の派遣があったからこそ将来の留学などを視野に入れることができました。この英国派遣で学んだことを活かして、より多くのことを学び、このきっかけをくれた北谷町に恩返しができるような人になりたいと思います。

そして、これまでサポートしてくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



Lovely Days

北谷中学校 3年 谷口 姫琉



私は、個性豊かすぎる仲間たちとともに英国派遣に行きました。11月14日から11月22日までの、長いようでとても短い旅は、私に大きな影響を与えてくれました。出発の日は、「私外国に行くの？ほんとに？」という気持ちと、「ああ外国か。」という気持ちとが半々で、とにかく実感がありませんでした。朝早く起きて荷物の最終確認を済ませ、その後家の中を徘徊、という見事な奇行を母に見せつけたことをよく覚えています。実感はないくせにととても楽しみで、とても緊張していたのです。まさか那覇空港で中学生だと思ってもらえず年齢確認をされるという“ハプニング”を起こすとは私も思っていませんでした。飛行機の待ち時間でワードウルフをした時、このメンバーで遊んだのは初めてだなと思い、なんだか嬉しくなりました。東京に着いた日は、みんなで一つの部屋に集まってUNOをして、みんなとの距離がより縮んだように感じます。東京を出発した日は、興奮が止まりませんでした。

みんな楽しく、この旅は順調に進んでいるように思えましたが、またしても仲間の一人が出発口を通れないという“ハプニング”が。ここで私たちは、「誰かは必ず隣につくこと」という、最初ですべき確認をし合い、私はこの時、集団行動の重要さを改めて感じました。飛行機に乗って、まずはオーケストラを聴きながら眠ったのですが、起きても着くまでに10時間以上残っていて、とてつもない絶望を感じました。ですが、悪いことだけでだけではありません。客室乗務員のお兄さんが外国の方でしたが、日本語はもちろん、うちなーぐちを話せる方で「はいさい、乗ってくれてにふえーで一びる！」と挨拶をしてくれて、なんだか嬉しくなりました。「ごめんなさいは、うちなーぐちでなんと言いますか」と聞いてくれて、「多分、わっさいびーたんですよ。」と教えると、そのすぐ後、朝ごはんを届けてくれる時に「お勉強の邪魔してわっさいびーたん。」と言ってくれて、ほっこりしました。そして、アメリカのアラスカ州の上を通った時、オーロラを見ることができました。オーロラを見るのは初めてで、神秘的でこの世の全てがちっぽけに見えてもう…感動しました！機内食は毎回和食と洋食のどちらがいいか選べて、それを聞きに乗務員さんがきてくれた時、隣で寝ていた愛彩を起こしたのですが全く起きず、「乗務員さーん！」と起きた時に焦っていたのは、今思い出してもとても面白いです。

イギリスに着陸する直前、イギリスの街並みを空から眺めることができ、まるで異世界のようにびっくりしました。でも、ここには私たちのように普通の暮らしをしている人が住んでいるのだと思うと、世界の広さと、未知さを知りました。入国の際、私を含む何人かはすんなりと通れたのですが、残りは何度もやり直しをさせられていて、ようやくみんな揃って歩き出した時、外を見ると紫と橙がグラデーションになっている綺麗な夕焼けが！そんなに時間が経っていたのかなと時計を見た時、到着してからまだ30～40分ほどで、日の落ちるスピードまで違うの？！ととても驚きました。

イギリスはもう、とにかく寒くて寒くて仕方がありませんでした。ホテルに着いてバスから降りた瞬間、肌は栗立ち顎はガタガタと震え、鼻は冷たい空気を吸って痛い。沖縄では絶対感じることをできない寒さに、この時ばかりは本気で沖縄に帰りたいと思いました。ホテルでのご飯は疲れや

慣れない味付け、日本とは比べ物にならない量で食べ切ることができずとても申し訳ありませんでした。やっと部屋に行ってゆっくりできると部屋に行くと、また“ハブニング”が！だいぶ話が長くなるので割愛しますが、「まさかのダブルベット」「付け方不明の暖房」「出ることのないシャワー」「ドライヤー、爆発」など…私の穏やかな眠りはありませんでした。ホテルの朝ごはんは、伝統的なイギリスの食事で、もう全てが美味しすぎてすっかり昨日のご飯の苦しさはなくなっていました。

そしてついにホストファミリーとの初対面！ちょっと不安でしたが、どうやらライラも私と同じく人見知りらしく、気まずいことにはならなかったのはよかったです。ホストマザーのローズさんはとても優しい方で、あたふたしている私に優しく話しかけてくれたり、欲しいものは欲しいと言っていいのよなど、私が安心できるようなことを言ってくれる方でした。ホストファザーのリーさんもとても愉快な方で、私をよく笑わせくれました。それからこれはイギリスの男性全員に言えることですが、とにかく紳士！レディーファーストは基本、荷物持ちも進んで引き受けてくれ、「これがジェントルメン…！！」と思いました。イギリスで唯一あったカルチャーショックは、車の中がとてつもなく静かなことです。みんなから共感をもらえるまで、私が気まずくさせているんだ、ちゃんと話さないと大焦りでした。その日はショッピングモールとスーパーマーケットに連れて行ってもらったのですが、とにかく全てが大きく、知らないお店ばかりでローズさんに「あなたずっと驚いた顔をしているわ」と言われてしまいました。ショッピングモールではパジャマとスリッパを買ってもらい、眠る時に快眠を得ることができました。今でも寒い夜はあのもこもこのパジャマを着て寝ています！ホストファミリーの家に帰ってきた時、「ここがあなたの部屋よ！」と紹介された部屋は、大きいベッドにテレビやクローゼット、部屋の奥にはトイレ、シャワー、バスタブがあり、高級ホテルのような感じでした。ローズさんの「休みたかったら自分のお部屋に行って休んでもいいのよ。私たちはあなたを無礼だと思わないわ。」という言葉に甘えて、早めに部屋に行ってお風呂に入り寝てしまいました。私の疲れをとることを最優先に考えてくれて、安心して眠ることができました。



次の日のロンドン観光では、周りの建物が歴史を感じる格好いい建物だったり、高すぎる建物だったりバスの中にいる時から興奮が止まりませんでした。バスからまず目に入るビック・ベンは壮大すぎて言葉では言い表せません。ロンドンにある建物は普通の家も含め THE・UK！！という感じでなんと言い表すべきか…。酔ってしまいそう？という感覚になります。夢の中にい

るようで、楽しむことしか考えられません。ビック・ベン周辺の建物を見て回った後は、ロンドン・アイという観覧車に乗ったのですが、人生初の観覧車なこともあり、きっと私の目は五歳児並みにキラキラしていたと思います。ロンドンという街を見ているだけなのに、世界中を眺めている神様のような感覚になりました。そのあと、地下鉄に乗ってビートルズの CD ジャケットの写真を撮った場所、有名なアビー・ロードに行った時、本当に、文字が書いてある以外普通の横断歩道でし

た。ですが、一步一步歩く度に自信が出てくる不思議な場所でした。ちなみに地下鉄はかなり急発進急停止なので電車中にある棒をしっかり掴んでないと倒れます。

DMS は、というかイギリスの人みんな、とにかく美男美女で、先生ともフレンドリーに接しますが、意外に結構厳しめです。生徒にも日本と同じで真面目な子も授業中ふざける子もいます。ただ、グループというか、授業中喋る子は限られている感じで、日本のように教室の端の子が反対側の端の子に喋りかけて先生に叱られる、といった光景は見られませんでした。お昼は自分で自分の好きなものを好きなだけとる方式でしたが、指紋で支払いが流石に驚きました。とにかくパスタが美味しかったです。お勧めです。

朝起きたら窓の外が真っ白で、大興奮でした！イギリスに着いた瞬間から白い息で興奮する私たち沖縄県民の頭の中は雪合戦でいっぱい、私が学校に着いた頃にはみんな雪合戦で大盛り上がりでした。その日にアフタヌーンティーをいただいた時は、本場のスコーンを食べさせてもらいました。今までで一番美味しかったです！「誰？イギリスの食べ物美味しくないって言ったの？！」とみんな言っていました。チェpstree城は、矢を打つための穴などがたくさんあって、本当に戦争ってあったんだな…と実感しました。

その日の夕ご飯は“ローストディナー”というもので、普段は日曜日に食べる料理だそうです、私のために作ってくれていました。私の中でイギリスのご飯 NO.1 はこれです！ヨークシャーピング、ぜひ食べてみてほしいです。ご飯を食べ終えたあと、お土産として持って行っていた島ぞうりを使い、みんなで島ぞうりアートをやると、とても真剣に取り組んでくれて、なんだか嬉しくなりました。何気に一番思い出に残っているのはこのようなホストファミリーとのお喋りの時間だったりします。水曜日の夜は次の日にお別れなものもあり 11 時近くまでずっとおしゃべりしていました。今にも泣きそうな私を抱きしめてくれたローズさんのことを思い出すと、今でも涙が止まりません。



もちろん、水曜日は寂しいだけではなく、プライマリースクールに行った時は、質問攻撃を受けたり、結構本気の雪合戦を小さい子供たちも含めてみんなでやりました。子供たちも可愛くて本当に楽しかったです。その後に行ったグロスター大聖堂は、「私たちが入ってもいいのでしょうか…？」と尻込みしてしまうほど壮大で威厳がありました。中のステンドグラスも綺麗でした。また見たいです！



みんなとのお別れの日もう大泣き。ライラにもローズにも抱きしめてもらって、みんなで写真を撮って…思い出すとまた泣けてきます。ウィンザー城は、スケールがさすが王族…という感じで、周辺のお店でお昼を食べた時、何人かでこれまでの思い出を語り合い青春でした。

イギリスについては、「壮大」「美男美女」「紳士」「ご飯は美味しい」ということを一番思いました。後はやっぱり、“ハプニング”です。毎日が爆笑で、最後の東京から沖縄への便に乗る直前に「パスポートと搭乗券がない！」と大騒ぎになった時は、流石にびっくりしましたが、そんなハプニングも今となってはいい思い出です。

このイギリス派遣は私にとっても大切な思い出をくれた素晴らしい体験となりました。これからの人生でこの経験を活かしていきたいです。

英国派遣を終えて

桑江中学校 3年 奥間 夢野

私は11月14日から22日までの9日間、北谷町の英国派遣団としてイギリスを訪れました。最初に日本を出発する前は、イギリスに行く実感が湧きませんでした。羽田空港を出発した瞬間から次第に、ホストファミリー先でのことやコミュニケーションをとれるかなど不安とワクワクが入り混じった気持ちになりました。14時間の長いフライトのあと、やっとロンドンのヒースロー空港に到着すると、現地の空気や英語の看板、話し声をきいて、イギリスに來たんだと実感が湧きました。ディーンマグナの先生方が迎えに来てくれ、バスでホテルに向かう途中、寒さに震えながらも移動の疲れでみんな爆睡していました。ホテルに到着すると大きなクリスマスツリーが出迎えてくれ、ディナーでは初めてのイギリス料理に挑戦しました。少し辛いカレーのあとにでてきたチキングラタンもとても美味しくて、イギリスの料理に期待が膨らみました。



次の日はいよいよホストファミリーと初対面。男の子の家庭というのもあり、緊張と不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーが気さくに話しかけてきてくれたり、温かい笑顔で接してくれてあんなに緊張していたのが嘘みたいに自然と緊張が解けました。その日はホストファミリーと犬も一緒に散歩に出かけ、イギリスの自然や動物に触れながら、家族や沖縄のことについて話しました。散歩中には、馬がたくさんのんびり過ごしていて、仲よく寝ていたり目の前を歩いて行ったりで初めてこんなに自然に触れられてとてもびっくりしました。午後はグロスターのクリスマスイベントに参加し、クリスマスの音楽が流れていたりイルミネーションやツリーのライトアップもとてもきれいで、皆でカウントダウンしたり、楽しい時間を過ごしました。ホストファミリーにお土産を渡すと、全部にリアクションをくれて、みんなとても喜んでくれて、けん玉やだるま落としをして遊んだり、ちんすこうやハイチューなどのお菓子を食べながらゲームを楽しみました。

2日目はとても楽しみにしていたロンドン視察研修に行きました。ロンドンでは寒さに震えながらもロンドンバスに乗り、有名な観光地を周り、ビッグベンやロンドnbrリッジなど、歴史を感じる建物を見学しました。特にビッグベンの大きさや、ロンドnbrリッジの美しい装飾に感動しました。街中には、ヨーロッパならではの建物や電話ボックス、黒いタクシーが多く、ロンドンならではの風景を楽しむことができました。さらに、クリスマスの時期だったため、イルミネーションがとてもきれいで、夜の街並みを歩く中で、イギリスの雰囲気を感じることができました。途中で買ったソーセージロールは予想以上に美味しくてびっくりしました。また、イギリスには電柱がなく、街灯がたくさんあったことなど、驚きがたくさんありました。帰りのバスでは英語でワードウルフというゲームをし、とても盛り上がり、帰りも楽しく過ごせました。

3日目はディーンマグナへの初登校。初めは緊張しながらも、8人みんなでプレゼンテーションをしました。みんなクイズに真剣に取り組んでくれ、想像以上に盛り上がってくれて嬉しかったです。そのあとはジャックと一緒にいろんな授業を受けたのですが、寝ている人や怠けている人が誰一人おらず、みんな真剣に発言にも積極的に授業に取り組んでいました。さらに学校全体の設備がしっかりしていて、先生たちもみんな通りすがりに「Hello!」と



言ってくれたり、学校全体が明るい雰囲気でした。また、数学がレベル別にクラスが分かれていたり、理科の授業で、HIVやエボラ熱について調べるなど、普段の日本の学校では触れないような内容に触れることができました。

特に印象的だったのは、音楽の授業で、音楽の授業では、チームごとに分かれ、キーボードやドラムを使って演奏し、競うのが新鮮で楽しかったです。また、科目別に教室が指定されており、生徒一人一人が選択した科目を受けるというシステムも新鮮だと感じました。

次の日の朝、ジャックから「雪が降ってるよ！」と言われて外を見たら、本当に雪が降っていて感動しました。その後、学校では数学や科学の授業を受けましたが、やっぱり英語での授業は難しく、大変でしたが、過ごすうちに少しずつ理解することができるようになっていったのを実感し、とても嬉しかったのを覚えています。午後には、書道をしました。ジャックやホストマザーの名前を満字で書いて喜んでもらいました。その後、チェップストウ城を訪れ、ハリーポッターに出てきそうな美しい城を見学しました。

5日目では小学校を訪問しました。プレゼンテーションでは、日本や沖縄について話したことを、みんなが楽しんでくれてうれしかったです。その後は、子どもと鬼ごっこをしたり、雪だるまを一緒に作ったり雪合戦をしたりなど、私たちも子どもの頃のようにしゃぎました。その後はグロスター聖堂に行きました。そこでは、まるでハリーポッターの世界に迷い込んだかのような感覚を味わい、建物の中のステンドグラスや広い空に圧倒されました。グロスター聖堂を出たあとにはみんなでピザを食べたりしながら充実した一日を過ごしました。

5日目にはホストマザーが作ってくれたアルバムを渡してくれて、泣きそうなくらい感動しました。お別れするとき、ホストファミリーから温かい言葉をもらい、帰りたくないという気持ちと同時にまた絶対来たいという気持ちが強くなりました。その後、ウィンザーキャッスルを訪れ、中の装飾が豪華で金がたくさん使われていたり、刃や銃がたくさん並べられていてとてもすごかったです。帰りのバスでは、ホストファミリーとの思い出を語り合い、イギリスでの経験が自分にとってどれほど貴重で大切なものだったかを実感しました。

イギリスでは毎日が驚きの連続で、他では得られない学びと成長がいっぱい詰まった1週間でした。文化や習慣、学校生活全てが新鮮で、たくさんの経験をさせてもらい、それとともに自分の未熟な部分を見つけることもできました。この経験を「楽しかった」で終わるのではなく、これから先に生かせるようにもっともっと成長していきたいです。また、学ぶだけでなく、イギリスに行かないと感じられない人のありがたさや温かさも感じることができました。この派遣を通して積極的に話し、挑戦してみようというチャレンジ精神を身につけることができ、自分自身の視野も広がり、将来の選択肢も広がりました。大人になったときには英語に携わる職業や国際的に働ける職業につき、将来恩返しできるように社会に貢献できる人になりたいと思います！

最後に、このような貴重な経験をさせてくれた北谷町教育委員会の方々やホストファミリー、イギリスの先生方、引率の先生方、そして自分の家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



英国派遣を終えて

桑江中学校 3年 宮里成輝

今回、私たちは北谷町の英国派遣事業に参加し、英国に派遣されました。11月14日から11月22日までの8日間とても貴重な体験をすることが出来ました。

私は初めての海外で、イギリスに行くんだ！と期待を膨らませていましたが、フライトの日がどんどん近づいてくるとホストファミリーとは喋れるかなとか、向こうの学校の人とはうまく交流できるかなととても不安でいっぱいでした。羽田空港につき東京のホテルで一泊し、次の日の朝にはヒースロー空港へ出発しました。14時間という長時間のフライトは初めての経験でとても長く、寝ても寝てもまだ着かない、まだ着かないとロンドンに着く頃には疲れ切っていました、やっとの思いでヒースロー空港に着くとあたりはもう暗くなっており白い息が出るほどの寒さに興奮しました。空港からホテルまでの移動時間がなんと2時間！！寒すぎて、バスの中が一番辛かったです。私たちが泊まったロイヤルホテルには大きなクリスマスツリーがあったり、たくさんの料理が出てきたり、キングサイズのベッドなどスケールの大きさに驚かされました。

いよいよホストファミリーと対面の日、最初はハリーとザックの見分けがつかず戸惑いました。ホストファミリーデーはハリーと一緒に地域のプロサッカーの試合を観ました。日本から持ってきたお土産を渡すととても喜んでくれ、けん玉を一緒にやったり、折り紙を作ってあげたりしました。その日一日ホストファミリーと楽しく過ごしました。家族全員が優しく暖かかったです。

次の日にはずっと憧れだったロンドンに行きました。晴れが少ないイギリスでは珍しい太陽が打ち付けるほどの晴れの日で日本では味わえないような雰囲気を感じました。ロンドンの象徴でもあるダブルデッカーに乗りロンドン市内を観光しました。迫力のあるビッグベンや教会の鐘の音を聞いたりしてテレビの向こう側で見ていたロンドンを地肌で感じる事ができました。ロンドンで食べたフィッシュ&チップスのあの味はいつまでも忘れません。

3日目からはいよいよディーンマグナスchoolでの学校生活が始まりました。初登校で不安でしたが、学校に登校した途端たくさんの人に挨拶されて不安が晴れました。事前学習で準備を重ねていたプレゼンはとても盛り上がり皆んなが楽しんでくれて興味をもってくれたので嬉しかったです。愛彩さんの空手は迫力がすごくてディーンマグナスの生徒にも大人気でした。授業では寝ている人は誰もおらず、先生の話真剣に聞いて授業に対して自主的に取り組んでいる様子が見られました。授業は全てが英語で進められていくのでわからないことがほとんどでしたが、日に日に少しずつ理解していく自分に英語力の成長を感じました。



次の日の朝ホストファミリーに「窓の外を見てみて」と言われ窓の外を覗くと雪が降り積もっていました！沖縄では見ることのできない光景にテンションも上がり、学校につくと早速雪合戦が始まり、顔も洋服も雪だらけになりました。手が凍ってしまうのかと思いました。授業を終えると、家庭科室に向かい、テーブルの上にはたくさんの料理が並べられており、初めてのアフタヌーンティーを経験しました。スコーンやブラウニーなどとても美味しかったです。その後の授業でみんなで書道をしました。久しぶりの書道はあまりうまくできなかったけれどハリーが喜んでくれてよかったです。その後はチェプストー城に向かいました。岩や石垣でできており、ハリーポッターの雰囲気そのままでした。



次の日はプライマリースクールに行き子供たちが歌を歌ってくれたり、ダンスをしてくれたり、大歓迎で可愛かったです。そのあとはみんなで大聖堂に行きみんなで楽しく過ごせました。

そして最終日、朝早くに目が覚め、お父さん、お母さんとお別れの挨拶をして学校に向かいました。学校ではみんなが涙を浮かべていていました。僕自身はというと、ハリーがずっと笑っていてなんか楽しそうだったので悲しみも吹き飛びました。最後までみんな手を振ってくれてとても面白かったです、そして絶対また戻ってきたいなと思いました。

この1週間、日本ではできない経験をたくさんすることができ、とても貴重な時間になりました。毎日が初めてで新鮮なことも多くたくさんの方に驚かされ自分でもたくさんの方に気が付きました。この派遣のおかげで自分の課題について考えることも多く、異文化との交流にさらに興味が湧きました。このような機会を与えてくださった北谷町には感謝してもしきれません。そして引率してくださった先生方、私のことを信じて送り出してくれた家族に感謝しています。これからはこの経験を大いに活かし将来北谷町にたくさん還元できるように頑張っていきたいです。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



英国派遣を終えて

桑江中学校 3年 安田 妃栞



私は、11月14日から11月22日の9日間、イギリスに派遣されました。初めての海外ということもあり、とても楽しみだった反面、自分の英語力やホストファミリーとの関わり方など、不安なことも多くありました。忙しい毎日を送っているうちに、出発当日となり、少しの期待と大きな不安を抱えたまま、沖縄を出発しました。次の日、私達を襲ったのは14時間のフライトでした。半日以上も座ったまま過ごすというのは、想像以上に大変でした。寝ても、食べても、映画を見ても、イギリスには到着せず、14時間がまるで永遠のように感じました。イギリスに到着後、私に待ち受けていたのは入国審査という名の試練でした。私を含めた数人は機械での入国審査が上手くいかず、一人ずつ対面での入国審査を受けることになりました。入国審査官の方は私からすると、とても怖く感じました。発音が間違っていたのか中々言葉が通じず、緊張と焦りで頭がいっぱいでした。それでも何とか無事入国することができ、ほっとしたのと同時に、少し自信がついたのを覚えています。その後は、DMSの先生と合流しホテルへの移動を行いました。道中は、憧れの白い息に感動したり、バスに乗っておしゃべりしたりと少しリラックスすることができました。この日の夕食の席では、皆疲れ切っていて、これまでの移動の大変さを物語っているようでした。

三日目は、ホストファミリーとの初対面の日でした。朝から緊張と楽しみとが入り混じった複雑な気持ちでした。朝食を終え、ホストファミリーが迎えに来てくれました。初めは、お互い緊張していて少し気まずかったのですが、おしゃべりなお母さんのおかげで何とか打ち解けていくことができました。後々聞いてみると、ローズは私よりも緊張していて、大変だったと言っていました。ホストファミリーと合流した後はお家に向かいました。お家に着くと、まずは2匹の猫が迎えてくれました。毛並みが良く、目がクリクリでとても可愛かったです。最初は警戒されていて、近づくことができませんでしたが、しばらくすると近寄って来るようになり、とても仲良くなりました。お昼ご飯はお母さん特製のカレースープとパンでした。とても美味しく、会話も弾み、楽しい昼食でした。昼食の後は、ディーンの森に行きました。ディーンの森ではハリーポッターの世界にいるような気分でした。沖縄とは違い、木々が高く、見たことのない植物があったり、落ち葉が金色の絨毯のようでとても美しかったです。なかでも、野生の牛と出会った時はびっくりしました。とても大きくて迫力があり、少し怖くもありました。怖がりながらも、一緒に写真を撮ったのはいい思い出です。



四日目は、ロンドン視察でした。バスで2時間かけて行ったロンドンは、憧れを絵に描いたような街でした。大都会だなと思わせるビルの集合地域もあれば、古風な街並みも見え、とてもワクワクしました。バスを降りた後は、ホストファミリーの案内で、バッキンガム宮殿に行ったり、ビックベンに行ったりと観光地を巡りました。どこも、とても美しく、感動しました。お昼ご飯に食べたポテトフライは、とても美味しかったのですが、量も多く、チーズやソースがたっぷりかかっている、まるでカロリー爆弾のようでした。沢山の初めてを経験することができ、ホストファミリーとの仲が深まった充実した1日でした。

次の日は、月曜日でディーンマグナススクール初登校の日でした。ディーンマグナススクールは、ドアが自動ドアだったりと設備が充実していました。授業では、先生と生徒とのコミュニケーションが盛んで、生徒一人一人に発言の場があったりと、主体的に学ぶ姿勢が見られました。また、授業と休み時間でオン・オフの切り替えができていて生徒が多い点や、居眠りをしている生徒がいない点は特に見習っていくべき点だと感じました。火曜日に訪問した小学校では、児童会の生徒が案内をしてくれ、とても可愛かったです。参加した授業では、子供たちがたくさん質問してくれ嬉しい反面、喋るスピードが速く、聞き取る事が出来なかったりと自分の未熟さを痛感しました。けれど、そんな中でも楽しくコミュニケーションを取ることができ、また一緒に日本語を練習したりと日本のことを伝えることができたのでよかったです。この日は雪が降っていたので、休み時間には雪だるまを作って遊んだりしました。初めての体験を可愛い子供達とできてとても楽しかったです。

あっという間に時間は過ぎて行き、お別れの日となりました。とても寂しく、帰国するという現実を受け止められませんでした。朝、ホストファミリーに手紙を渡すと、泣きながら喜んでくれました。ホストファミリーも私との別れを惜しんでくれているという事実が、何よりも嬉しかったです。学校に着くと皆大号泣していて、少し面白かったです。

私は今回の派遣を通して、日本とは違う価値観や景色、気候に触れ、日本の素晴らしさに改めて気付くとともに、視野が広がったように感じます。また、以前よりも英語を話すことに抵抗がなくなり、コミュニケーション能力や行動力が高まりました。このように、成長した点もありましたが、それと同時に自分の課題点も見つけることができました。今後は、今回見つけた課題を改善して、次は自分の力でイギリスへ行けるよう頑張っていきたいです。将来は国外での仕事にも挑戦します。

最後に、このような貴重な体験をさせて下さった北谷町、そしてホストファミリーや先生方、いつも私を支え、助けてくれる両親をはじめとする、この派遣に関わって下さったすべての方に感謝しています。本当にありがとうございました。



令和6年 英国派遣帰国報告書

北谷町立北谷中学校
教諭 ストール正枝

はじめに

11月14日(木)から11月22日(金)の9日間、北谷町英国派交流事業の引率者として、派遣代表生徒の8名と共に英国を訪問しました。イギリスには、以前「第二言語の習得方法」研究のために、留学しており、実に25年ぶりのイギリスへの訪問となり、より感慨深い派遣となりました。

北谷町が主催する国際交流事業に携われて、事業の内容の素晴らしさも、もちろんですが、2001年から継続した交流があり、その中で経験を踏まえ改善を行いながら、今回の素晴らしい派遣内容へと繋がっていると感じ、深く感銘を受けました。交流派遣で体験した事と成果について報告したいと思います。



英国派遣への旅

沖縄からは、羽田で一泊し、翌日朝、英国へと向かいました。ゆとりを持つての移動で、負担がなく、さらに生徒同士の交流を深めるよい機会となりました。英国ヒースロー空港へは、約13～14時間の飛行時間で、とても長いフライトに当初びっくりしましたが、パレスチナ情勢を踏まえての飛行ルートとのことで、世界の情勢を実感する事となりました。無事到着した際には、ほっとしたのを覚えています。

英国滞在

夕方に到着、空港で、ディーンマグナスchoolの担当者 フィービー先生が出迎えてくれました。無事合流し、ロンドン郊外、車で3時間ほど離れたグロースターシャー州へ移動しました。ロンドンまでは、旅行でいくことはあっても、グロースターシャー州までは、あまり行くことがないので、貴重な体験だと感じました。

田園風景がきれいな Ross on wye という町に滞在しました。ロンドンとは違う可愛らしい小さな田舎町に感動しました。生徒と共に一泊し、翌日からホームスティーへと生徒は移動しました。全員体調もよく、生徒の嬉しそうな笑顔や高揚感がこちらにも伝わってきて、引率している間は、本当にうれしい場面を多々見る事になりました。



生徒が移動した後、担当のハリー先生が、Ross on Wye の町を案内してくれました。そのあと Hereford という町でヘルフォード聖堂を見学しました。イギリスの気候は、寒いのですが、滞在中雪が降ったりと、(11月では珍しいと言われました)沖縄とは違う環境もとても良い経験となりました。

日曜日は、生徒たちや受け入れ家庭、みんなで一日ロンドン視察研修でした。

25年ぶりのロンドン、懐かしさと町の変容を楽しみました。ロンドンの名所、国会議事堂(ビッグベン)やロンドンアイ、ピカデリーサーカス、Covent Garden、ナショナルギャラリーや大英博物館、歴史ある建物や展示作品の数に圧倒、また魅了され、満喫した1日となりました。月曜からは、学校で授業見学をさせていただきました。一番に感じたことは、生徒の授業を受ける姿勢がとても素晴らしいなと感じました。学ぶ姿勢、寝ている生徒は、見当たらず、その違いに感心しました。学習に対する姿勢、規律の育成の仕方はどうなっているのだろうかという点に興味がありました。

現地の先生方と話をしていくと、同じような教育価値観をもっていたり、不登校の生徒への対応に困っていたりと共通する課題も同じで様々な教育について語り合えたのもよい経験となりました。

全体集会や、近隣の小学校での交流学习では、生徒たちは事前に準備してきた沖縄の紹介を空手の演舞も交えながら、素晴らしく発表することができました。

イギリスの良さも感じることもできましたが、国外に出て改めて生徒を見たとき、北谷町が取り組む、「学びプロジェクト教育施策」との関連が深く根底に根付いているのではないかと感じるが多々ありました。



学校現場において実践し、取り組んでいる教育施策「スマイルプログラム」「クラス会議」「国際理解教育」。

子供たちを自然と、お互いがよりより人間関係を結ぼうとする姿勢、物事を楽しもうとする姿勢、スピーチコンテストを通しての国際理解教育の推進による外国への興味関心への態度の育成へと導いているのではないかと感じました。



東京で一泊した際、子供たち自ら計画し、1つの部屋で集合し、おしゃべり交流会を持っていました。生徒達同士、楽しい交流ができ仲間となっていた様子が大変すばらしかったです。また、イギリス滞在中もバス移動の際にみんなでゲームしたり、楽しく歌っている様子が見られました。この様子に現地の

先生は、本当にびっくりし、協調性のある姿勢やお互い思いやる姿勢をととても評価していました。イギリスの先生曰く、現地の生徒は、どちらかと言えば、すぐに各自携帯に夢中になるのではないかと話していました。

「クラス会議」の影響か、みんなで話し合いながら現地での文化交流発表、臨機応変に対応する力、英語へのさらなる学習意欲喚起など派遣を通して顕著に見られました。普段の学校現場での日々の取り組み事項が、実生活で生きているのを体感しました。

交流事業において、円滑に日程が調整されている事や引率に関する支援の仕方など、この事業を担当なさる北谷町職員の方々の配慮やサポート、現地の先生方との引継ぎや連携など細かい取り組みが、今回の素晴らしい派遣へと繋がっていると深く感銘を受けました。本当に感謝致します。

帰国後の取り組みとして

多感な生徒たちのこれからの成長過程において、より良い影響を与えてくれると確信する素晴らしい体験内容となっていました。

引率した役目として、私ができる事は、この取り組みを広報担当となり、在校生へと広く広めていくことと思いました。一人でも多くの生徒が、英語力習得へのモチベーションを高めていけるように多様な取り組みができたと思います。

そこで、イギリスでの様子を写真つきで校内掲示することにしました。これは年間を通して掲示する予定です。(写真下:ディーンマグナ校内にも沖縄派遣の写真が年間を通して掲示されていました。)



また「国際理解教育」の推進や、多様な英語の授業内容の取り組みなど、私ができる一番の努めと考えましたので、これからも継続して、真摯に取り組んでいきたいと思います。

素晴らしい国際交流授業に引率として関われたことに、本当に感謝致します。

子供たちの感動する姿や、帰国の際にみた涙の様子など本当に見ていて感動するものがありました。

交流派遣一団が無事帰国し、帰国報告ができることを嬉しく思います。

北谷町国際交流事業に携わる関係各位の皆様 ご支援ご指導本当にありがとうございました。



はじめに

11月14日(木)～11月22日(金)の9日間、北谷町立派遣交流及び視察研修の引率者として、意義のある貴重な体験をさせていただきました。英国訪問では Dene Magna School や Forest View Primary School、Sixth Form での交流及び視察を行い、様々な体験を通して多くの学びとなりました。英国訪問のねらいを踏まえ、その引率及び視察研修についてご報告いたします。

Dene Magna School や Forest View Primary School、Sixth Form での交流及び授業視察について

11月19日から11月21日の3日間は Dene Magna School にて交流及び授業視察を行いました。日本の中学校とは違い、教科ごとに教室が分かれており、生徒たちが授業によって教室に移動して授業に参加していました。指導方法や授業形態は日本の授業に近いと感じましたが、規律の徹底や生徒たちの主体的に取り組む姿勢、教科や教師によって教室の掲示物の工夫が多くみられました。授業視察で特に印象に残ったことについて紹介いたします。



①学習規律の徹底について

視察したどの授業でも学習規律がしっかりしており、先生が話をするときにおしゃべりをする生徒はおらず、質問や意見を言う際は静かに手をあげ指示があるまでじっと待っていました。また、どの教室にも学習規律や生徒に期待すること、コミュニケーションをする際の言葉遣いやマナーの掲示がされていました。ピリピリした雰囲気というよりはむしろ、生徒が積極的に授業に参加し、とても意欲的で楽しそうに取り組んでいる様子が見られました。もちろん授業中の居眠りをする生徒はいませんでした。

②授業について

数学や英語、音楽や美術、プログラミングやドラマなどの授業を視察させていただきました。基本的に日本の授業スタイルとの大きな違いはありませんでしたが、生徒が積極的に参加しているということが印象深かったです。また、日本にはないドラマの授業では、本格的なスタジオの様な教室で古代ギリシャの演劇の練習が行われていました。数学では生徒の習熟度に分かれて授業が行われ、テストの返却時は、生徒自身がテストの内容を分野ごとと振り返ることができるようにプリントが工夫されていました。

③教室や廊下の掲示物について

授業は教科ごとまたは教師のいる教室で行われるため、教科・教師によって教室の掲示物に工夫がみられました。この教科の〇〇は実生活でどのように活かされているのか、学ぶことで将来〇〇(職業)への道が開かれるというような、キャリア教育を意識した掲示物が多くみられました。また、廊下には、授業を受けるための条件や内容等、各教科のカリキュラムのような掲示物が設けられており、生徒たちは学習の習熟度に応じた授業を受けることができるように工夫されていました。さらに、国際理解を意識した、世界各国の本の紹介や北谷町の生徒との交流の様子がわかる掲示物もありとても参考になりました。

④スナックタイム・ランチタイムについて

Dene Magna School ではスナックタイムが 2 時間目と 3 時間目の間に 20 分設けられており、生徒たちは集会場や中庭で軽食をとりながらリラックスしていました。休憩時間を設け軽食を摂ることで授業に集中できるようになっていると感じました。 また、ランチタイムには集会場にテーブルやイスがスタッフによって並べられ、生徒たちはビュッフェ形式で好きな食べ物をよそってもらい、指紋認証での支払い後、ランチを食べていました。また日本の高校同様ランチボックスを持参している生徒もあり、友人らと自由に座って昼食時間を過ごしていました。食文化に関しては日本の中学校と大分違い、ランチタイムにスナックやフルーツジュースを飲んでいる生徒も多くいました。食後の清掃はなく、生徒が再び授業へ向かった後、スタッフが片付けや清掃を行っていました。

④その他

映画ハリーポッターの hogwarts の学校のように、Dene Magna School には生徒会のような 4 つの組織があり、それぞれがスポーツや学習、スクールイベントなどで競い合っているが、それぞれの代表の生徒たちは、Declan Mooney 校長と毎週ランチミーティングを行い、学校の状況、生徒たちの意見の集約や週末のスクールイベントなどについて話し合う場を設けており、生徒と職員との良好な関係や生徒たちの自治的環境が整っている様子が伺えました。

生徒の様子や変容

北谷町立スピーチカンバセーションコンクールで優秀な成績を修めた生徒 4 名と各学校長から推薦を受けた 4 名の生徒たちは、とても優秀で意欲的な生徒たちです。ほとんどの生徒が初めて海外に行くので、最初は英語での会話や渡航への不安（出国・入国）等がありましたが、ホストファミリーとのお別れの際には目を腫らすくらい泣いてそれぞれ別れを惜しんでいました。あるホストの母親が「とても素敵な生徒で、両親はあなたのことを大変誇りに思っていると思います」と生徒に声掛けをして抱きしめていたのがとても印象的でした。最初英語に不安を持っていた生徒たちも、積極的に話しかけたり質問したりして英語に苦戦しながら一生懸命コミュニケーションをとっていました。英国での初雪の体験や様々な文化施設への訪問での歴史の中に身を置いた感動、ホストファミリーとの思い出を胸に、今度は自力で英国に行くことをそれぞれ決意しながら帰国の途に就きました。事後学習や北谷町役場での英国派遣事業報告会での発表を通して、生徒たちが改めて挑戦することの大切さや人とのつながり、これからどのようにこの経験を活かしていくのかについて考え成長を実感することができたと思います。

終わりに

英国派遣にあたり、Dene Magna School の先生方や生徒たち、ホストファミリーが生徒たちを温かく迎え入れてくれて、貴重な体験をさせていただき、無事帰国できたことに感謝いたします。また、英国の文化に触れ、交流を深めることができたこの経験を、教師として北谷町の生徒たちに様々な形で還元していきたいと思います。

改めて、このような機会を与えてくださり、支えてくださった全ての方に感謝いたします。



英国派遣出発式

11.08

北谷町の代表としてしっかり学んできます！



イギリスへ出発！

前泊の羽田で絆深まりました♪



11.14



Welcome to the UK!!



11.15

イギリス到着！料理の量の多さにびっくり！



11.16

Host Family Day



野生の牛や羊が！！



11.17

LONDON TRIP



各自ホストファミリーとロンドン市内を見学
とってもレアな晴天！！





Dene Magna School Visit



11.18

ディーンマグナスchoolで授業参加



授業で習字を紹介。パートナーの名前を漢字で表してみよう！



11.19



小学校訪問



夜はボーリング大会♪

チェプストー城





11.20
本場のアフタヌーンティー♪
の後はグロスター大聖堂へ



11.21
お別れの日・・・
みんな大号泣でした(ಥ_ಥ)



ウィンザー城訪問



12.12
帰国報告会
町長・教育長へ成果報告



11.21
無事帰国しました!



夢に向かって頑張ります!





SEIJI & ZACH'S FAMILY



Aisa & Freddie's Family



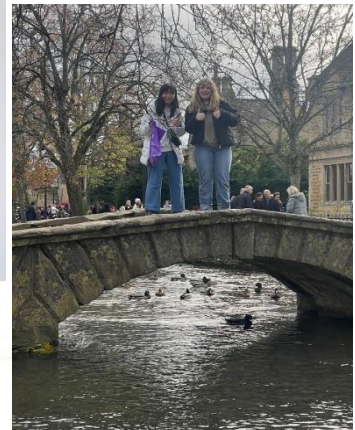
Naruki & Harry's Family



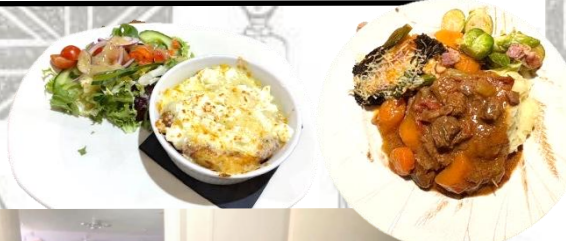
Himeka & Rose's Family



Yuna & Beth's Family



Yuri & Izzy's Family





YUMENO & JACK'S FAMILY



Himeru & Lyra's Family



English Speech and Conversation Contest

スピーチの部



This year's topic is...
「Hobbies, Favorite thing to do!」

カンパセーションの部



昨年度派遣生の
英国派遣報告

結果発表

(ドキドキ...)



表彰式



派遣決定おめでとうございます☆



2024年度 英国訪問団受入の様子



めんそ〜れ!!



6.29



ホストファミリーデー



6.30



7.1

町長表敬



空手体験!



7.2

北玉小&美ら海水族館



7.3

桑江中



7.4

北谷中



お茶会 & 送別会



7.5

お見送り

過年度派遣生も
参加してくれました!



一生忘れられない思い出を
ありがとう!

2024 ディーン・マグナ・スクール受入スケジュール

- 訪問者： 引率者2名(男1、女1)中学生7名(男1、女6)
- 訪問期間： 2024/6/29(土)～7/5(金) 6泊7日
- 宿泊： ベッセルホテルカンパーナ、ホームステイ



日付		時間	場所	内容	宿泊	食事	
6/29	土	12:15	那覇空港	那覇空港到着 12:45 JL909	引率:ホテル 生徒:ホテル	生徒	引率
		13:30	ホテル	教育委員会のバスでホテルへ			
		14:00		ホテルにて対面式 ホテル宿泊		(夜)	(夜)
6/30	日	全日		ホストファミリーデイ	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	(朝)	(朝)
				引率は両中学校教諭(前年度引率)と観光		昼	昼
						★	(夜)
7/1	月	9:30		町内視察(うちな一家)	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★	(朝)
		11:30		町長表敬訪問			
		12:00	北谷	教育長、教育委員と昼食懇談会		昼	昼
		14:00		文化体験(空手)講師:少林流「聖武館」島袋様			
		17:30		ニライセンター解散		★	夜
7/2	火	8:15	北谷	北玉小学校 訪問 ～10:30頃まで	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★	(朝)
		11:00	北部	県内視察バスツアー(美ら海水族館へ)		給	給
				お弁当			
7/3	水	18:00		各ホームステイ先へ	引率:ホテル 生徒:ホームステイ	★	(夜)
		8:15	北谷	桑江中学校訪問(給食・清掃終了まで)		★	(朝)
				13:30 ホスト生徒も一緒に玄関集合		給	給
7/4	木	14:00		インディアンオーク号見学後、マリンスポーツ体験	引率:ホテル 生徒:ホームステイ		
				海人の会 @アラビビーチ			
		17:30		体験後解散 各ホームステイ先へ		★	(夜)
		8:15	北谷	北谷中学校訪問(給食・清掃終了まで)		★	(朝)
		13:00		給食後、ニライセンターへ		給	給
7/5	金	14:00		三線体験 講師:よなは徹様	引率:ホテル 生徒:ホームステイ		
		15:00		お茶会(ニライセンター和室) 講師:紗楽の会			
		18:00		送迎会(ニライセンター講座室)		送別会	送別会
		9:00		ホテル集合		★	(朝)
7/5	金		南部	沖縄わーんど		昼	昼
		夕方	那覇	パルコシティ			
		18:00	那覇空港	那覇空港発 20:35 JL922便		-	-



また来年
待ってるたん！